

雑餉隈遺跡 2

雑餉隈遺跡 2

－第3次・第1次調査－

大野城市文化財調査報告書 第191集



大野城市文化財調査報告書 第191集

大野城市教育委員会

2021

大野城市教育委員会

ざっしょのくま
雑餉隈遺跡 2

－第3次・第1次調査－

大野城市文化財調査報告書 第191集



2021

大野城市教育委員会

序

福岡県大野城市は福岡平野の南部に位置し、その市名は日本最古の朝鮮式山城「大野城」に由来します。市域には大野城跡のほか、水城跡や牛頸須恵器窯跡などの重要な史跡が所在し、豊かな歴史遺産に囲まれた街といえます。

今回報告する雑餉隈遺跡は、市域の北部、福岡市境に近接する江戸時代の遺跡です。この地は、江戸時代に整備された日田街道沿いにあたり、宿場である博多と二日市の間^{あいしゆく}に位置する「間の宿」として栄え、茶店や旅籠^{はたご}が軒を連ねていたと伝えられています。

発掘調査の結果でも、本書に掲載するとおり、江戸時代の賑わいを伝える多くの遺物が出土し、当遺跡の重要性を示す内容となっています。

本書が学術研究はもとより、広く一般に活用され、地域の歴史や文化財への理解と関心を深める一助となることを願ってやみません。

最後になりましたが、本調査にご理解ご協力をいただいた土地所有者をはじめ関係各位に厚くお礼申し上げます。

令和3年3月31日

大野城市教育委員会
教育長 吉富 修

例 言

1. 本書は、福岡県大野城市錦町1丁目15・16番所在の雑餉隈遺跡第3次調査、雑餉隈町3丁目15番4所在の雑餉隈遺跡第1次調査に伴う発掘調査報告書である。
2. 第3次調査、第1次調査ともに、大野城市教育委員会が主体となり、共同住宅建設に伴って発掘調査を実施した。第3次調査は平成17年度、第1次調査は昭和63年度に調査を行い、整理作業は平成22年度・令和2年度に実施した。
3. 第3次調査は林潤也、第1次調査は向直也が担当した。
4. 第3次調査の遺構平面実測図は林のほか、(株)埋蔵文化財サポートシステム福岡支店に委託し作成した。
5. 第3次調査の遺構写真、全景写真は林が撮影した。
6. 第3次調査の遺物写真は、(株)写測エンジニアリングに委託し、牛嶋茂が撮影した。
7. 第3次調査の遺物実測・拓本は、会計年度任用職員の白井典子、仲村美幸、小嶋のり子、松本友里江、津田りえ、氷室優、古賀栄子、篠田千恵子、小畑貴子が行った。遺物の製図およびこれに伴う写真撮影は小嶋、遺構の製図は篠田・小畑が行った。
8. 第1次調査の遺物実測・拓本・製図については、(株)埋蔵文化財サポートシステムに委託し作成した。
9. 観察表については、第3次調査分を小嶋・林が作成し、第1次調査分については埋蔵文化財サポートシステム福岡支店の委託成果品をもとに、小嶋・古賀・林が作成した。
10. 本書に使用する土色名は、『新版標準土色帖』（農林水産省技術会議事務局監修）を使用した。
11. 本書図中の方位は座標北を示す。
12. 本書に掲載した遺跡分布図は、国土交通省国土地理院発行の25,000分の1地形図『福岡南部』を使用した。
13. 本書に掲載の出土遺物・実測図・写真は、大野城市教育委員会が保管・管理している。
14. 土製人形については、山村信榮氏（太宰府市教育委員会）に詳細な観察結果を提供して頂き、また山崎龍雄氏（福岡市埋蔵文化財課）に陶磁器に関する助言を頂いた。
15. 本書の執筆、編集は林が行った。

本文目次

I. はじめに	
1. 調査に至る経緯（第3次調査）	1
2. 調査体制	2
3. これまでの調査	3
II. 位置と環境	
1. 地理的環境	4
2. 歴史的環境	4
III. 第3次調査の成果	
1. 調査概要	6
2. 遺構と遺物	7
3. 補足調査の成果	25
IV. 第1次調査の成果	
1. 報告書作成までの経緯	26
2. 出土遺物	26
V. 総括	
1. 遺構・遺物の年代	33
2. 奈良時代の雑餉隈遺跡	33
3. 江戸時代の雑餉隈遺跡	33

挿図目次

第1図 調査区の位置と周辺文化財（1/2,500）	3
第2図 周辺遺跡分布図（1/25,000）	5
第3図 第3次調査遺構配置図（1/100）	6
第4図 SE01実測図（1/40）	7
第5図 SE01出土遺物実測図（1/3）	7
第6図 SX05出土遺物実測図（1/3）	8
第7図 SX05～07実測図（1/40）	8
第8図 SX06出土遺物実測図①（1/3）	9
第9図 SX06出土遺物実測図②（1/3）	10
第10図 SX06出土遺物実測図③（1/3）	11
第11図 SX07出土遺物実測図（1/3）	12
第12図 SD01出土遺物実測図①（1/3）	13
第13図 SD01出土遺物実測図②（1/3）	14
第14図 SD01出土遺物実測図③（1/3）	15
第15図 SD01出土遺物実測図④（1/3）	16
第16図 SD01出土遺物実測図⑤（1/3）	17
第17図 SD01出土遺物実測図⑥（1/4）	18

第18図	SD01出土遺物実測図⑦ (74は1/3、他は1/4) ……………	19
第19図	SD02出土遺物実測図 (1/3) ……………	21
第20図	SD04出土遺物実測図 (1/3) ……………	21
第21図	SD05出土遺物実測図① (86・87は1/4、他は1/3) ……………	23
第22図	SD05出土遺物実測図② (1/3) ……………	24
第23図	SD01・02土層実測図、SD05断面実測図 (1/40) ……………	24
第24図	補足調査区位置図 (1/400) ……………	25
第25図	第1次調査出土遺物実測図① (1/3) ……………	27
第26図	第1次調査出土遺物実測図② (1/3) ……………	28
第27図	第1次調査出土遺物実測図③ (1/3) ……………	29
第28図	第1次調査出土遺物実測図④ (1/3) ……………	30
第29図	第1次調査出土遺物実測図⑤ (1/3) ……………	31
第30図	昭和初期頃の雑餉隈町・山田・筒井の街並みと発掘調査地点 ……………	34
第31図	二重構造七輪の類例 (1/8) ……………	34

表 目 次

出土遺物観察表 ……………	35～40
---------------	-------

図 版 目 次

図版 1	(1) 第3次調査全景 (南西から) (2) 第3次調査区遠景 (四王寺山を望む) (西から)
図版 2	(1) SE01完掘状況 (西から) (2) SE01黄褐色土 (最上層) 確認状況 (西から) (3) SX07完掘状況 (北西から)
図版 3	(1) SD01南西側検出状況 (南東から) (2) SD01遺物出土状況 (南から) (3) 作業風景 (南から)
図版 4	(1) SD01土層 (北東から) (2) SD01完掘状況 (東から) (3) SD01完掘状況 (北東から)
図版 5	(1) SD02土層 (南東から) (2) SD02完掘状況 (南東から) (3) SD04完掘状況 (北東から)
図版 6	(1) 補足調査区全景 (北東から) (2) 補足調査区落込み土層 (東から) (3) 第3次調査地現況 (北から)
図版 7～14	第3次調査出土遺物

I. はじめに

1. 調査に至る経緯（第3次調査）

雑餉隈遺跡は、大野城市錦町1丁目、雑餉隈町3丁目、筒井1丁目、山田4丁目にかけての遺跡であり、主に近世の遺構・遺物が発見されている。

当該地（錦町1丁目15・16）については、マンション建設計画に伴って大和ハウス工業株式会社より平成17年4月に埋蔵文化財の照会があり、5月25日に試掘調査を実施した。試掘調査では、対象地（781.5㎡）に5本（61.6㎡）のトレンチを設定・掘削し、現地地表下約90cmで地山である明黄褐色土に至り、この上面で近世～近代の遺構を確認した。遺構の広がりとしては、北西側は近世の遺構が多いものの、南東側は近代以降の遺構しか確認できなかった。また対象地南隅では、溝状の大型落ち込みが確認され、周辺と同じく、上面検出時に近代の陶磁器が出土した。

教育委員会は、これを踏まえ事業者と協議を行ったが、事業者のマンション建設の意向は強く、記録保存を行うことで合意した。また事業者は一刻も早い調査の着手・完了を希望し、教育委員会としても、埋蔵文化財発掘調査委託契約および文化財保護法第93条に基づく福岡県教育委員会の指示後、速やかに調査着手することとなった。

調査範囲については、開発事業対象地のうち、近代以降の遺構しか確認できなかった南東側を除外することとし、北西側のみを対象とすることとした。

その後、事業者は文化財保護法93条に伴う届出を行い、福岡県教育委員会あてに進達したところ、5月30日付で発掘調査を実施する旨、指示があった。また事業者である岡部茂氏と5月31日付で埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結し、同日より調査に着手した。調査は杭打ち部分を先行して実施し、杭部分の発掘調査後に杭を打設、その後調査区全体の表土を除去し、6月24日に発掘調査を完了した。なお事業地南隅の大型落ち込みについては、調査対象とはしなかったものの、江戸時代に開削された運河「新川」の可能性があるため、一部上面検出および掘削を行い図化した。調査費用については、市の内規に基づき市と事業者の折半とした。

整理作業は、令和2年度に大野城市の一般財源を用いて実施した。



試掘調査風景

2. 調査体制

平成17年度（発掘調査）

大野城市教育委員会

教育長	古賀 宮太
教育部長	小嶋 健
社会教育課長	水野 邦夫
文化財担当係長	舟山 良一
主 査	徳本 洋一 石木 秀啓 丸尾 博恵 緒方 一幹（事務担当）
主任技師	林 潤也（調査担当） 早瀬 賢
嘱託（調査関係）	一瀬 智（～7月） 井上 愛子 西堂 将夫 北川 貴洋
嘱託（庶務）	栗津 剛史

令和2年度（整理作業）

大野城市教育委員会

教育長	吉富 修
教育部長	日野 和弘
ふるさと文化財課長	石木 秀啓
啓発・整備担当係長	佐藤 智郁（～4月） 林 潤也（整理担当）
主 査	徳本 洋一
主任主事	秋穂 敏明
主 事	鮫島 由佳
会計年度任用職員（啓発）	山村 智子 深町 美佳
会計年度任用職員（事務）	西村 友美 三好 りさ
発掘調査担当係長	上田 龍児
技 師	山元 瞭平 齋藤明日香
会計年度任用職員（発掘）	澤田 康夫 木原 堯
会計年度任用職員（整理）	白井 典子 仲村 美幸 小嶋のり子 松本友里江
	津田 りえ 氷室 優 古賀 栄子 篠田千恵子
	小畑 貴子
会計年度任用職員（事務）	山上 敬子 井之口彩子

3. これまでの調査

雑餉隈遺跡は、これまで本報告を含め3カ所の発掘調査を実施している。調査地は下表のとおりである。

調査回数	所在地	調査面積	調査期間
第1次	大野城市雑餉隈町3丁目15-4	-	昭和63年10月～12月
第2次	大野城市雑餉隈町3丁目24-1、24-2	930㎡	平成14年1月～3月
第3次	大野城市錦町1丁目15・16	130㎡	平成17年5月～6月



第1図 調査区の位置と周辺文化財 (1/2,500)

Ⅱ．位置と環境

1．地理的環境

大野城市の市域は南北に細長く、中央がくびれる瓢箪形を呈している。北東部には三郡山系の大城山や乙金山、南西部には背振山系の牛頸山を有し、山地から派生する丘陵部は中小の河川によって複雑に開析されている。また市域中央は御笠川が貫流し、河川堆積によって形成された平野部は福岡平野の一角をなしている。

地質学的には、山地は花崗岩類を基盤とし、平野部は縄文時代に形成された砂礫層（住吉層）が広がっている。また一部 Aso 4 火砕流堆積物が分布しており、平野部においては残丘状に確認される。雑餉隈遺跡は、この Aso 4 火砕流堆積物に起因する微高地を中心に展開している。

2．歴史的環境

大野城市の中央部、御笠川左岸の平野部を中心に周辺遺跡を概観したい（第2図）。

旧石器時代～縄文時代は、錦町遺跡、石勺遺跡、駿河遺跡、原口遺跡などで少量の遺構・遺物が確認できる。いずれの遺跡も Aso 4 火砕流堆積物に起因する微高地上に位置する。錦町遺跡では細石刃核や石槍が出土し、石勺遺跡では落とし穴状遺構や縄文早・後・晩期の土器が出土している。

弥生時代から古墳時代には遺跡数が増加し、沖積地への進出が顕著になる。川原遺跡、村下遺跡、仲島遺跡、石勺遺跡などで集落が営まれる。特に仲島遺跡では貨布、銅鏡片、鋤先、銅鏃といった弥生時代の青銅器が出土し、古墳時代には掘立柱建物群や馬骨を伴う拠点的な集落として注目される。また石勺遺跡は、集落の変遷、墓地とのつながりが確認できる重要な遺跡である。古墳時代の集落に対応する墓域は、大城山、乙金山、月隈丘陵の南西麓に展開したと考えられ、その有機的な繋がりが注目されている。

飛鳥時代から奈良時代には、水城跡・大野城跡が築かれ、巨視的に見た場合、国土防衛の最前線に位置づけられる。また谷川遺跡や池田遺跡、先ノ原遺跡、村下遺跡で官道の痕跡が検出され、仲島遺跡、原ノ畑遺跡、御笠の森遺跡などで集落や墓地が確認されている。

平安時代から戦国時代には、御笠の森遺跡や宝松遺跡、川原遺跡、村下遺跡、谷川遺跡、上園遺跡などで集落や墓地が検出されている。特に御笠の森遺跡は、11世紀からの小規模な集落が、15～16世紀に拡大化し、方形区画を有する屋敷地が群集する集落景観が復元できる。

江戸時代では、御笠の森遺跡、後原遺跡の調査成果が特質される。先述の御笠の森遺跡は、近世初期まで盛行し、羽子板や独楽、下駄や茶臼など一般農村とは異質な出土遺物が確認されている。当該集落は17世紀後半に突如断絶するが、この事象は『筑前国続風土記』にある村の移転記事と合致しており興味深い。後原遺跡は、旧白木原村の「本村」にあたる集落であり、発掘調査の結果、江戸後期の居住域・墓域を確認し、近世集落の様相を考古学的に示す重要な遺跡である。また本書に示す雑餉隈遺跡は、博多と二日市さらに天領日田を繋ぐ街道（日田街道、博多街道）沿いの集落にあたり、小規模な宿場（間の宿）として賑っていたことが知られる。明治時代にいたっても那珂御笠席田郡役所や雑餉隈郵便局が設置されるなど、地域の拠点であった。



1. 板付遺跡 2. 立花寺 B 遺跡 3. 立花寺遺跡群 4. 桜ヶ丘古墳群 5. 持田ヶ浦古墳群 A 群 6. 諸岡 A 遺跡
7. 諸岡 B 遺跡 8. 高畑遺跡 9. 井相田 D 遺跡群 10. 金隈遺跡群 11. 仲島遺跡 12. 仲島中間尺遺跡
13. 影ヶ浦古墳群 14. 堤ヶ浦古墳群 15. 持田ヶ浦古墳群 B 群 16. 持田ヶ浦古墳群 C 群 17. 持田ヶ浦古墳群 D 群
18. 持田ヶ浦古墳群 E 群 19. 笹原遺跡群 20. 三筑遺跡 21. 麦野 A 遺跡 22. 麦野 C 遺跡 23. 麦野 B 遺跡
24. 南八幡遺跡群 25. 井相田 C 遺跡群 26. 持田ヶ浦古墳群 F 群 27. 御陵脇遺跡 28. 塚口遺跡 29. 御陵古墳群
30. 御陵前ノ塚遺跡 31. 川原遺跡 32. 御笠の森遺跡 33. 村下遺跡 34. 宝松遺跡 35. 雑餉隈遺跡 (大野城市)
36. ヒケシマ遺跡 37. 中・寺尾遺跡 38. 森園遺跡 39. 須玖五反田遺跡 40. 須玖永田遺跡 41. 須玖坂本 B 遺跡
42. 須玖岡本遺跡 43. 須玖尾花町遺跡 44. 上平田・天田遺跡 45. 雑餉隈遺跡群 (福岡市) 46. 赤井手遺跡
47. 竹ヶ本遺跡 48. 大南 B 遺跡 49. 宮の下遺跡 50. 伯玄社遺跡 51. 大南遺跡 52. 大谷遺跡 53. 小倉水城跡
54. 立石遺跡 55. 駿河 A 遺跡 56. 駿河 D 遺跡 57. 駿河 E 遺跡 58. 駿河 B 遺跡 59. 先ノ原 B 遺跡 60. 石勺遺跡
61. 瑞穂遺跡 62. 原ノ口遺跡 63. 先ノ原・春日公園内遺跡 64. 国分田遺跡 65. 原ノ畑遺跡 66. 後原遺跡
67. 御供田遺跡 68. ハザコ遺跡 69. 九州大学筑紫キャンパス遺跡群 70. 春日水城跡

第2図 周辺遺跡分布図 (1/25,000)

Ⅲ. 第3次調査の成果

1. 調査概要

雑餉隈遺跡第3次調査地点は、大野城市錦町1丁目15・16に所在し、開発対象面積は781.5㎡、うち調査面積は163㎡を測る。遺構面の標高は約18m、現在はほぼ平坦化しているが、古い地図などを見ると、本来は微高地にあたるのがわかる。地質的にはAso4火砕流堆積物に起因する明黄燈色土が遺構面を形成する。

調査の結果、井戸・土坑・溝状遺構・柱穴などが検出され、須恵器・陶磁器・瓦質土器・瓦・土製人形・鞆の羽口などがパンコンテナ13箱分出土した。このことから、奈良時代および江戸時代の集落の一部であることが明らかとなった。



第3図 第3次調査遺構配置図 (1/100)

2. 遺構と遺物

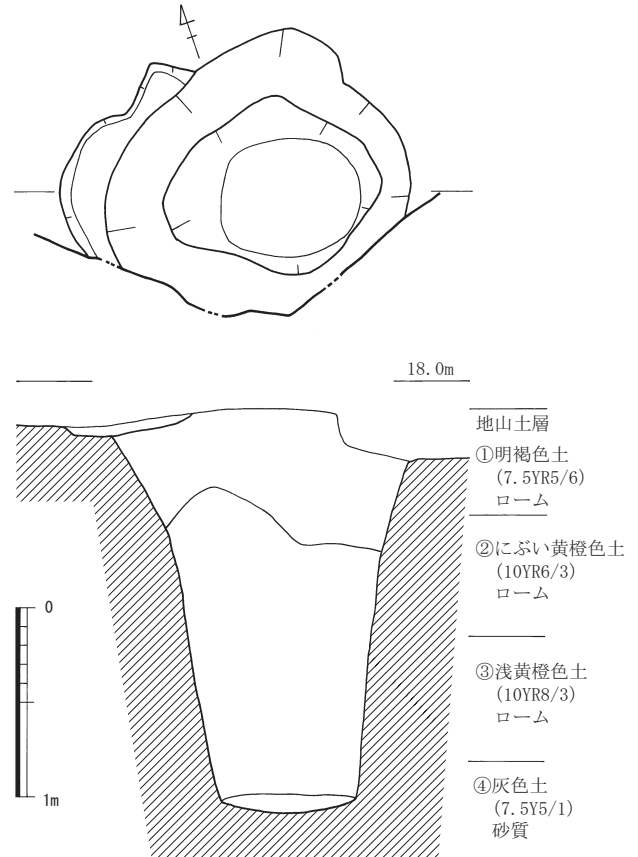
(1) 井戸跡

SE01 (第4図、図版2)

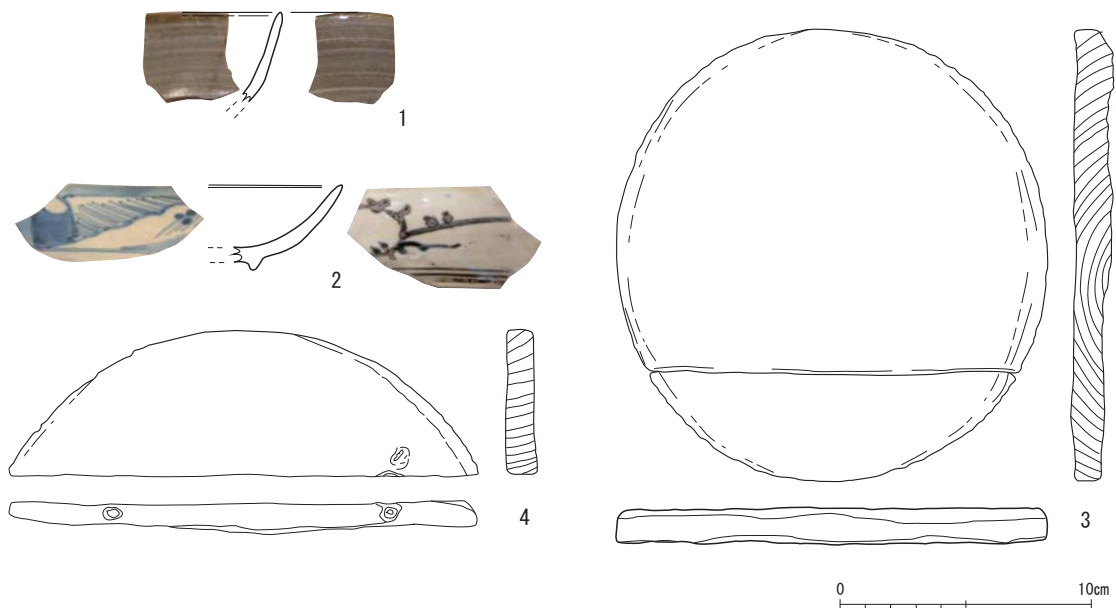
調査区南隅に位置する。南側の上端は調査区外に続くが、概ね円形プランを呈し、検出面で直径1.6m程度、底面直径0.64m～0.74m、深さ2.15mを図る。断面形は上部がやや開く漏斗形を呈する。底面の砂層より僅かながら湧水が確認できた。井戸枠等の痕跡は検出できず、素掘りと想定できる。埋土は、最上層が硬質の黄褐色土、上層が黒色土、下層が粘性の強い黒色土～暗灰色土であった。最上層の厚さは5cm程度であり、極端に硬質であることから、井戸の使用後、丹念に整地し叩き締められた可能性が高い(図版2(2))。

また井戸壁面の土層観察の結果、検出面を形成するAso4火砕流堆積物の厚さは1.8m程度であることが明らかとなった。

遺物としては、陶磁器・瓦・木製品が出土した。



第4図 SE01実測図 (1/40)



第5図 SE01出土遺物実測図 (1/3)

出土遺物 (第5図)

陶磁器 (1・2) 1は陶器椀。内外面とも白土を刷毛引きで施す。2は磁器皿。外面に唐草を描く。
木製品 (3・4) 3・4は曲物の底板。3は直径17.9cm、4は復元直径18.6cmを測る。4は破面に接合のための釘穴が2カ所確認できる。

(2) 土坑

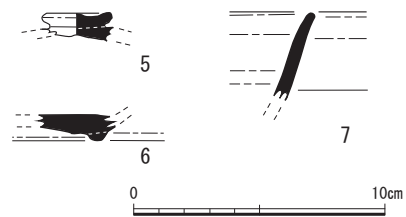
SX05 (第7図)

調査区西側に位置する。北東側は削平によって失われているが、概ね1.4m×0.7mの隅丸長方形プランを呈する。底面までの深さは8cmしか残っていない。埋土は暗褐色土の単層で、他の土坑埋土より締りが強い感がある。

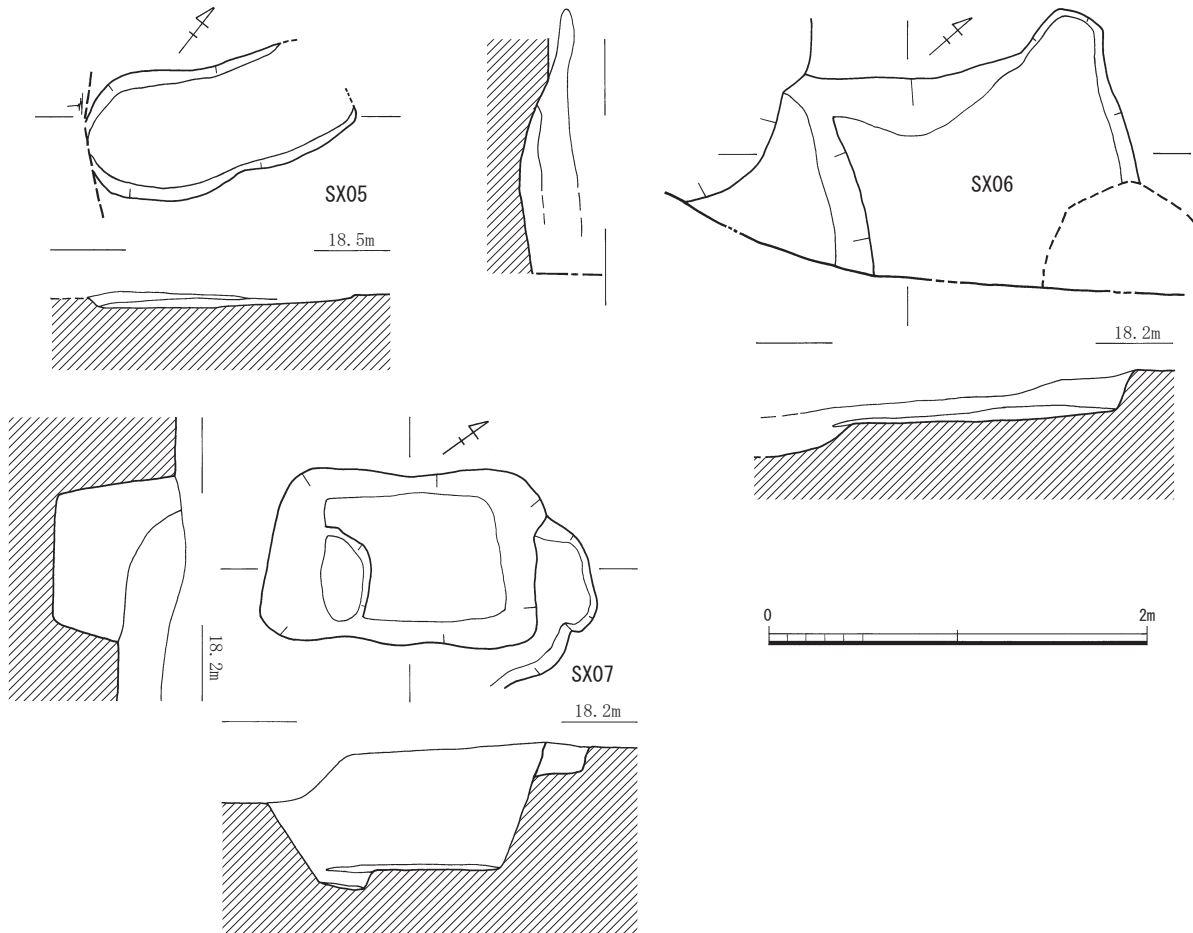
遺物としては、少量の須恵器・土師器が出土した。

出土遺物 (第6図)

須恵器 (5~7) 5は杯蓋。扁平なつまみを有する。
6・7は杯身。6は底部外縁に扁平な高台を持つ。



第6図 SX05出土遺物実測図 (1/3)



第7図 SX05~07実測図 (1/40)

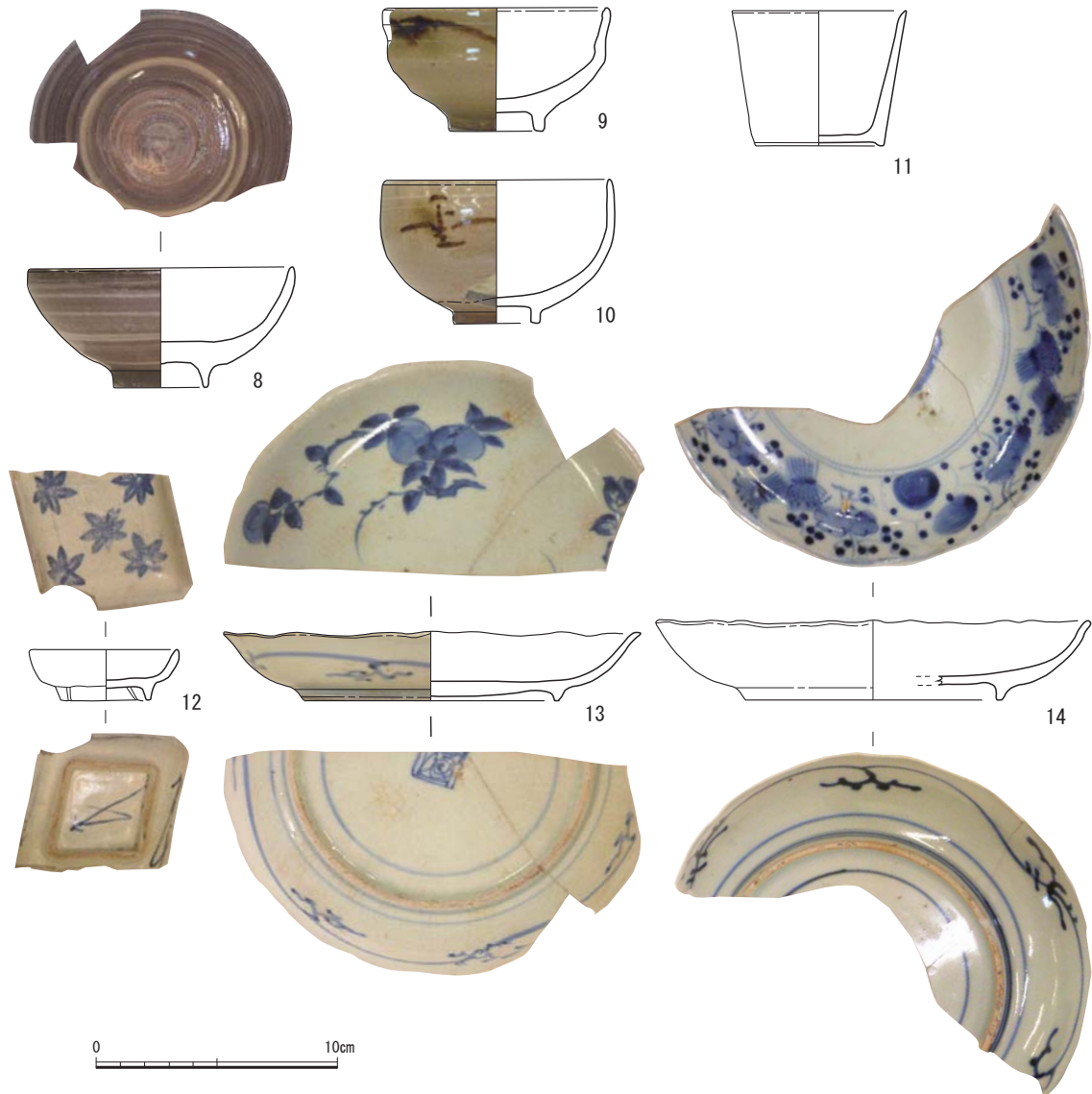
SX06 (第7図)

調査区南側に位置する。現状で長軸2.4m以上×短軸1.1m以上を測るが、SE01や攪乱によって南西側や北東側を失い、また東側は調査区外に続くため、規模・形状は明らかにできない。底面の深さは、南西側に向かって二段掘り状にやや深くなる。

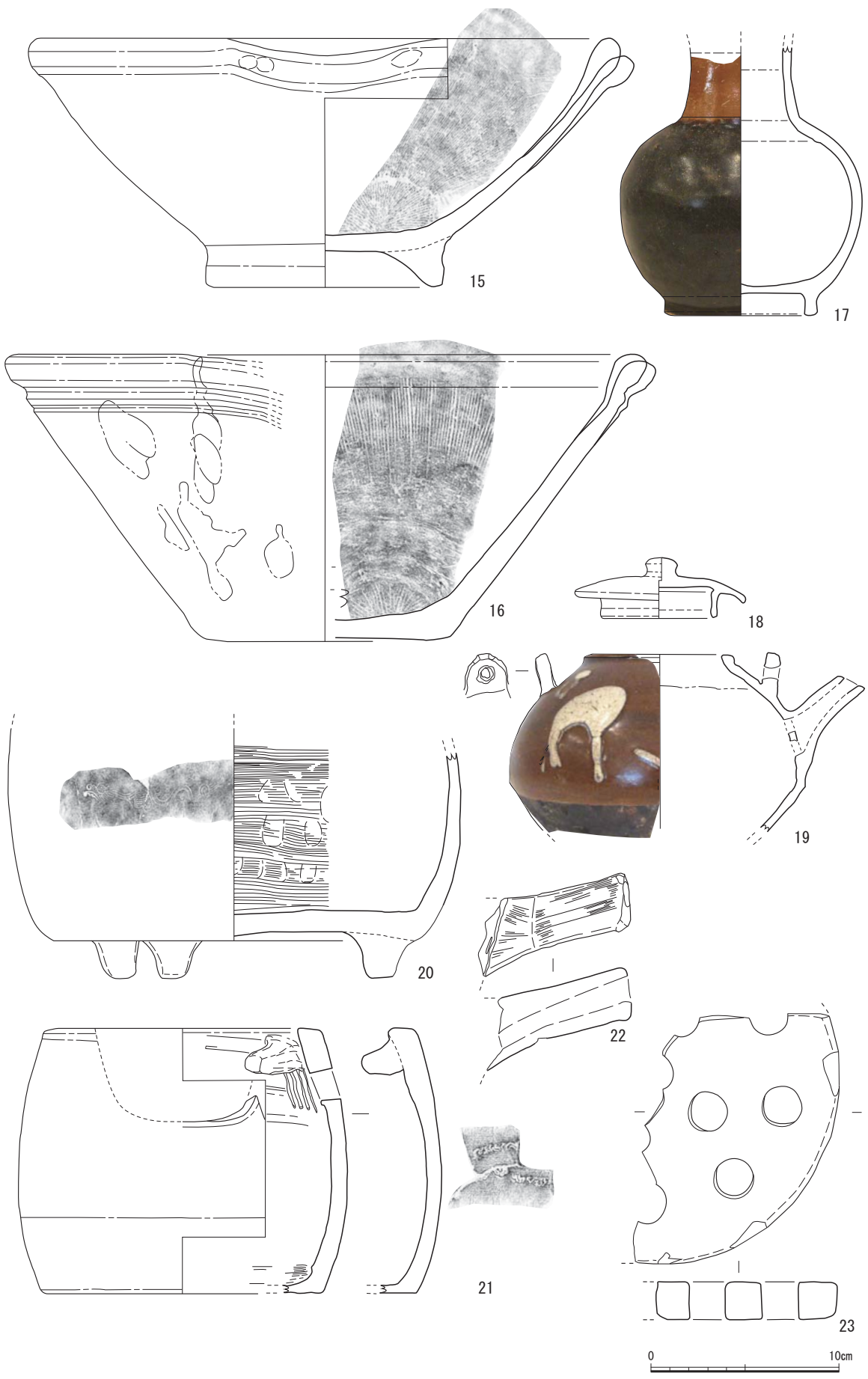
遺物としては、陶磁器・瓦質土器・土師器・瓦・土製人形などが出土した。

出土遺物 (第8図、図版8・9)

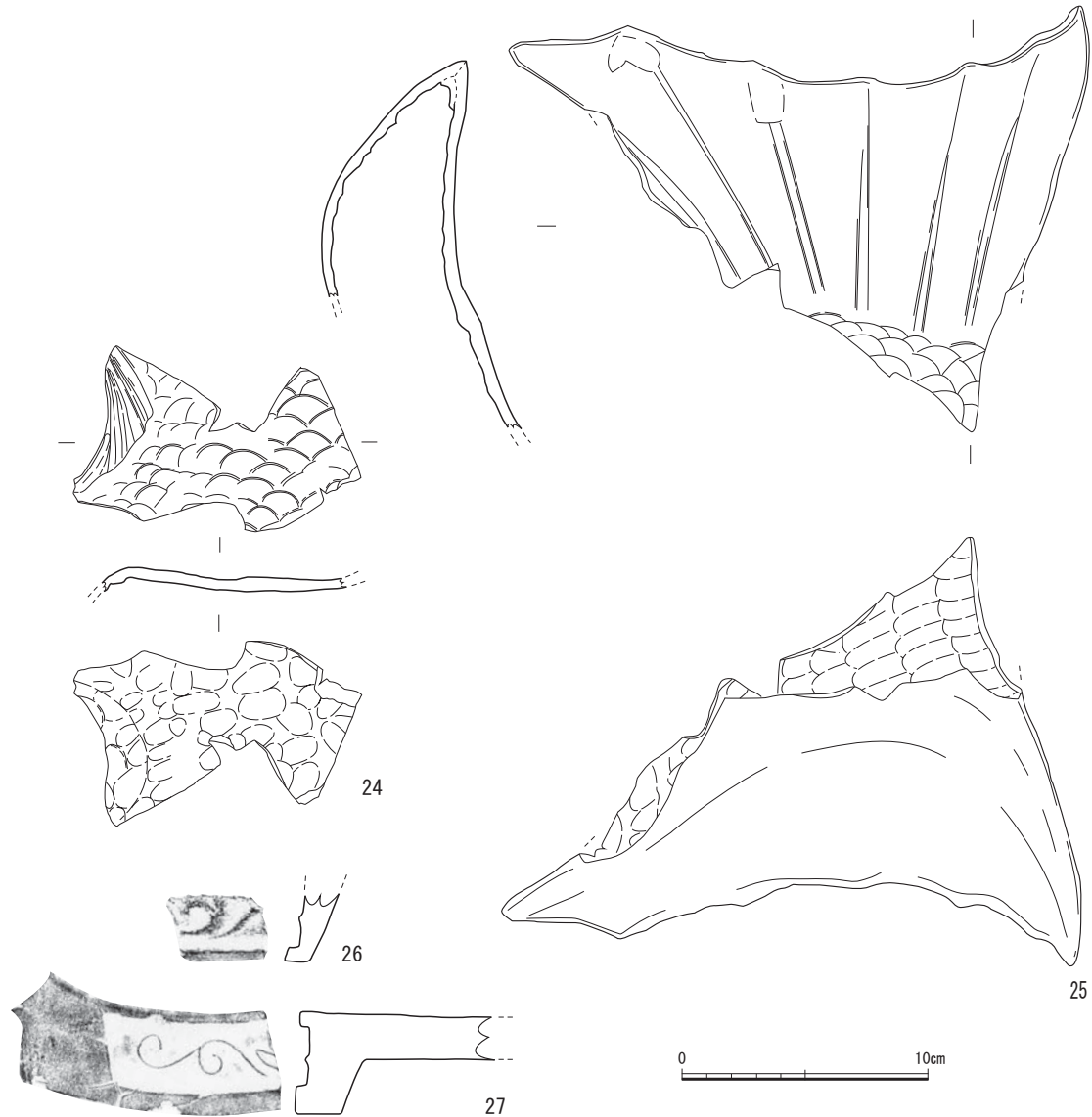
陶磁器 (8~19) 8~10は陶器碗。8は白土を刷毛引きで施したのち、透明釉を施す。見込みは蛇ノ目釉剥ぎ。高台内側面下部に砂が付着する。9・10は関西系陶器。9は体部が屈曲し、10は丸みを有する。いずれも鉄釉で竹笹状の文様を描き、高台付近まで透明釉を施す。11は磁器猪口。無文。内面は一部焼成時に黒変している。12~14は磁器皿。12は平面菱形を呈し、内面に紅葉、外面に松葉を描く。糸切り細工成形。13は内面に桃、外面に唐草、外底面に渦福を描く。14は内面に梅



第8図 SX06出土遺物実測図① (1/3)



第9図 SX06出土遺物実測図② (1/3)



第10図 SX06出土遺物実測図③ (1/3)

など、外面に唐草を描く。15・16は陶器播鉢。15は玉縁状の口縁部に片口を有し、底部はしっかりとした貼付け高台を持つ。16は口縁部直下に2条の沈線をめぐらし、底部は無高台となる。内面体部下半は、使用により播目が磨滅している。17は陶器瓶。頸部に褐釉、体部に黒釉を施す。18は土瓶蓋。外面全体に銅緑釉を施す。19は土瓶。外面体部上半に鉄釉を施した後、白色釉をイッチン掛けで施す。体部下半は露胎となるが、煤が厚く付着している。

瓦質土器 (20~22) 20は火鉢。外面は平滑に磨かれ、左向きの龍が丁寧に線刻されている。内面にはハケメが顕著に残る。21は風炉。外面に雲状のモチーフを描くが、線刻ではなくスタンプを連続させているように観察できる。口縁部直下に突起を貼り付け、窓部や穿孔(直径1.6cm)有している。底部は欠損しており、脚部の有無は不明。22は焙烙の把手。中空の円柱形を呈する。表面には細かいハケメ状の痕跡が確認できる。

土師質土器 (23) 23は七輪のサナ。直径19.6cmに復元できる。上面が強く被熱している。

土製人形 (24・25) 24・25は博多人形の鯛。尾びれがくねる形状から「鯛抱き」の逆さ鯛の可能性はある。そうであれば、高さ50cm程の大型の人形になる。扇形の鱗の重なりに乱れはなく、尾びれのラインは勢いのある沈線でシャープに描かれている。内面の型押しは親指で連続して押し込んだ痕跡が明瞭に残されている。また、ひれ先の内面の合わせ目は、扁平な粘土紐を充て、これを布で巻いた棒状の工具で連続して押し潰すように接合している。色調はにぶい黄橙色を呈し、胎土は微細な白色砂粒、金雲母を微量に含む精良な土を用いる。大型の鯛の破片は博多祇園町の博多117次調査で出土している。

瓦 (26・27) 26・27は軒平瓦。27の中心飾りは三葉の可能性が高く、脇には唐草を配する。燻しが施されている。

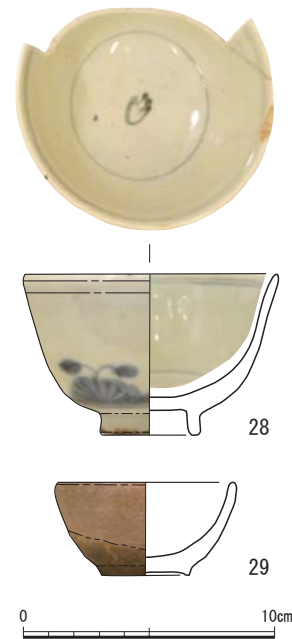
SX07 (第7図、図版2)

調査区南隅近く、SE01の北西側に近接する。1.42m×0.88mの隅丸長方形を呈し、最も深い部分で深さ70cmを図る。

遺物としては、陶磁器・瓦質土器・瓦などが出土した。

出土遺物 (第11図、図版10)

陶磁器 (28・29) 28は磁器碗。外面に草花を描く。高台底部には砂が付着する。29は陶器小杯。内面～外面上半部に半透明釉を施すが、残存部に文様は確認できない。底部は糸切り後、極めて低い高台を削り出している。露胎部に煤が付着する。



第11図 SX07出土遺物実測図 (1/3)

(3) 溝跡

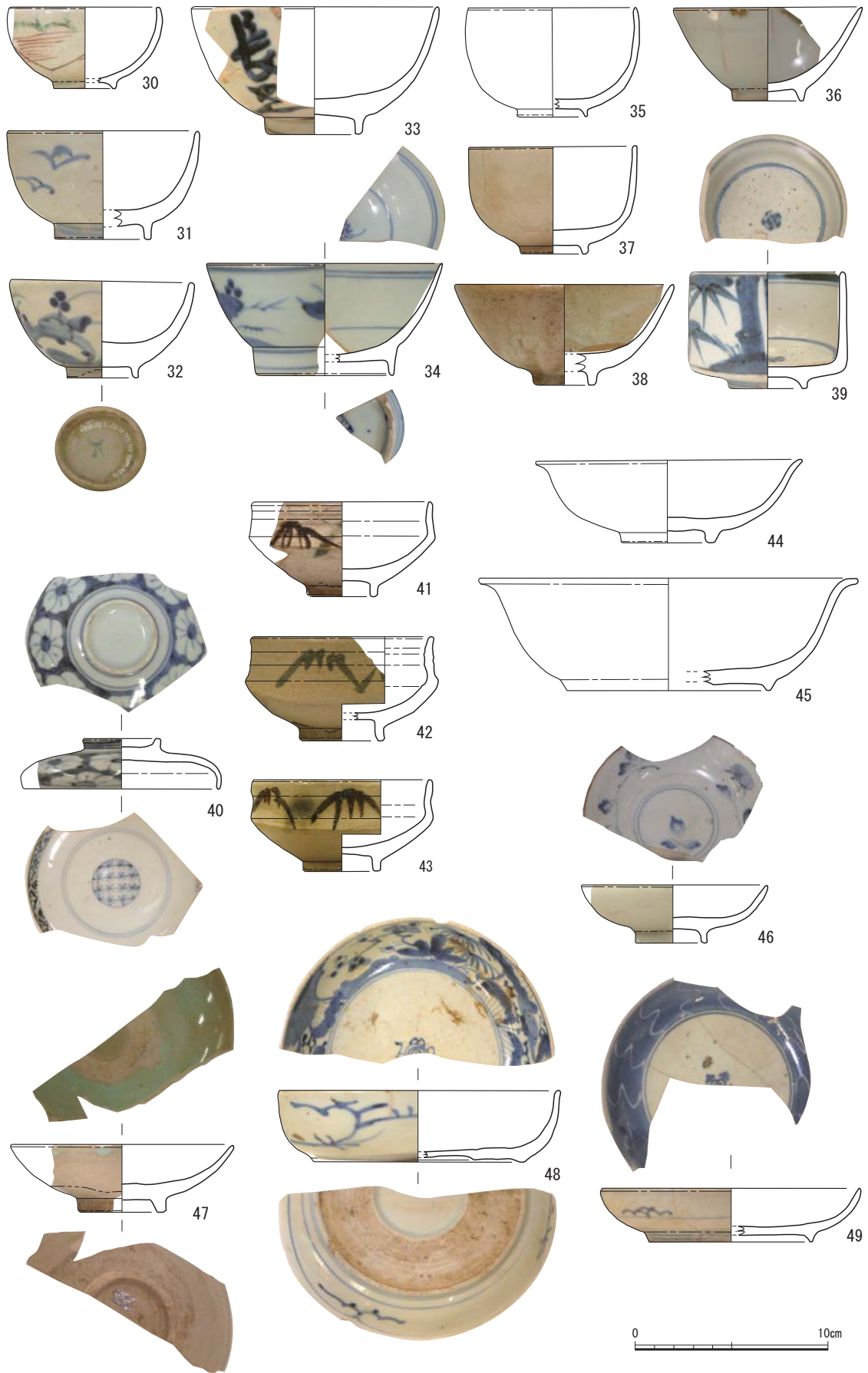
SD01 (第23図、図版3・4)

調査区やや東側に位置する。長さ7.6m以上、幅1.6m～4.5mを測る。南東に向うにつれ溝幅は広がり、底面のレベルも相対的に低くなる。中央部には土坑状の落ち込みがあるが、土層観察の結果、同一遺構と判断した。落ち込み部の下層では、粘質土が堆積しており、滞水環境であったと想定できるため、水溜め等の機能が予測される。

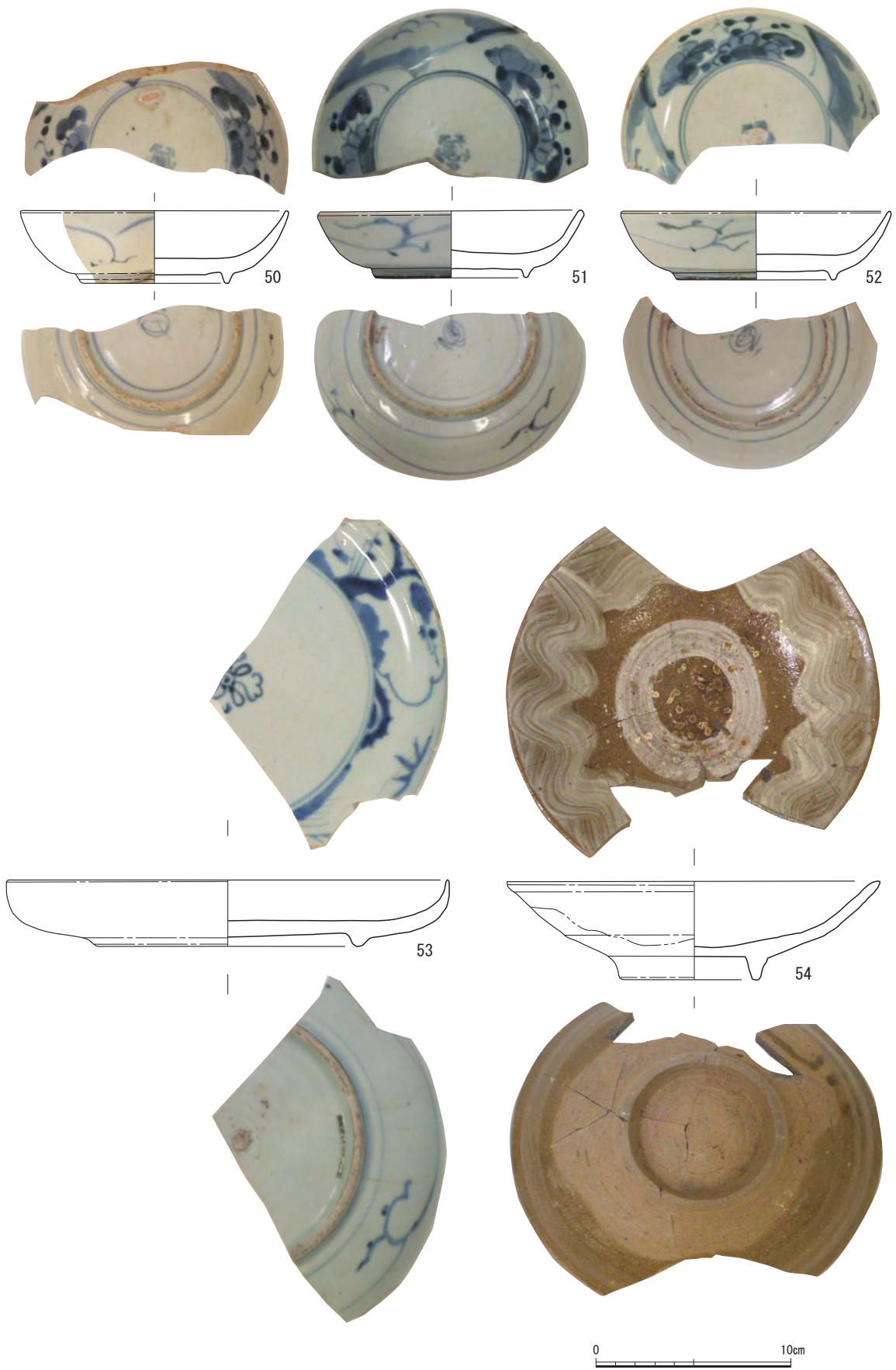
遺物としては、陶磁器・瓦質土器・土師器・瓦・石製品などが出土した。

出土遺物 (第12～18図、図版10～12)

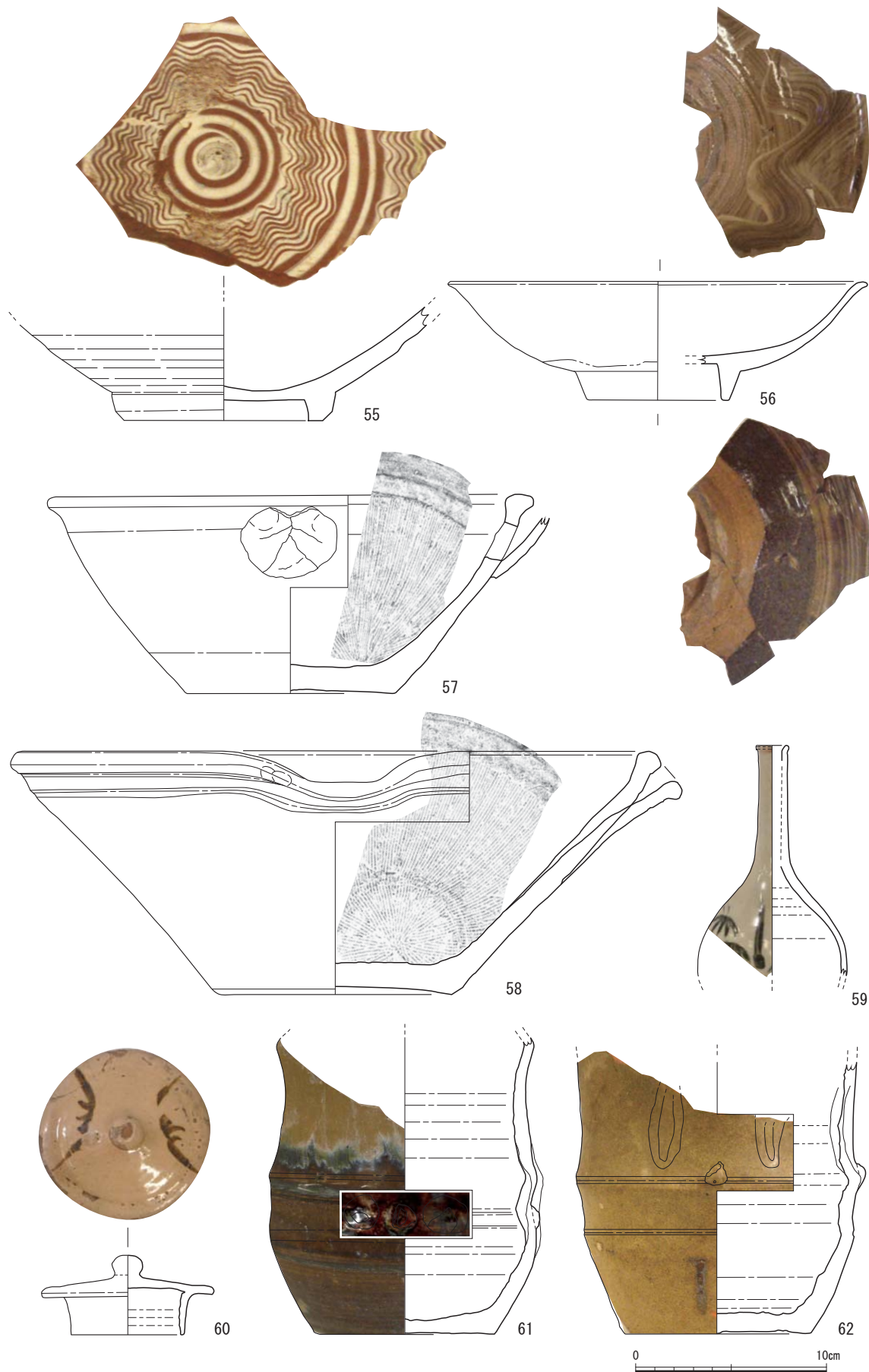
陶磁器 (30～62) 30は磁器色絵小碗。モチーフは判然としない。31～36・39は磁器碗。うち31～33は所謂くわんか碗。31は鳥文、32は梅樹、33は文字「長□」を描く。34は広東碗。外面に植物を描く。35は約50%残存するが文様は確認できない。36は口縁部に飴釉を一部掛ける。37・38は陶器碗。ともに無文。39は筒形湯飲み碗。外面に竹を描き、見込みにコンニャク印判で五弁花文を施す。40は磁器碗蓋。外面に花文、見込みに四方嚢文を描く。41～43は陶器碗。いずれも関西系陶器で、高台付近まで透明釉を施し、器形・文様も類似する。鉄釉で竹を描き、41・43では緑色釉を一部重ねる。41は透明釉が白く発色している。44～46・48～53は磁器皿。44・45は無文。44の見込



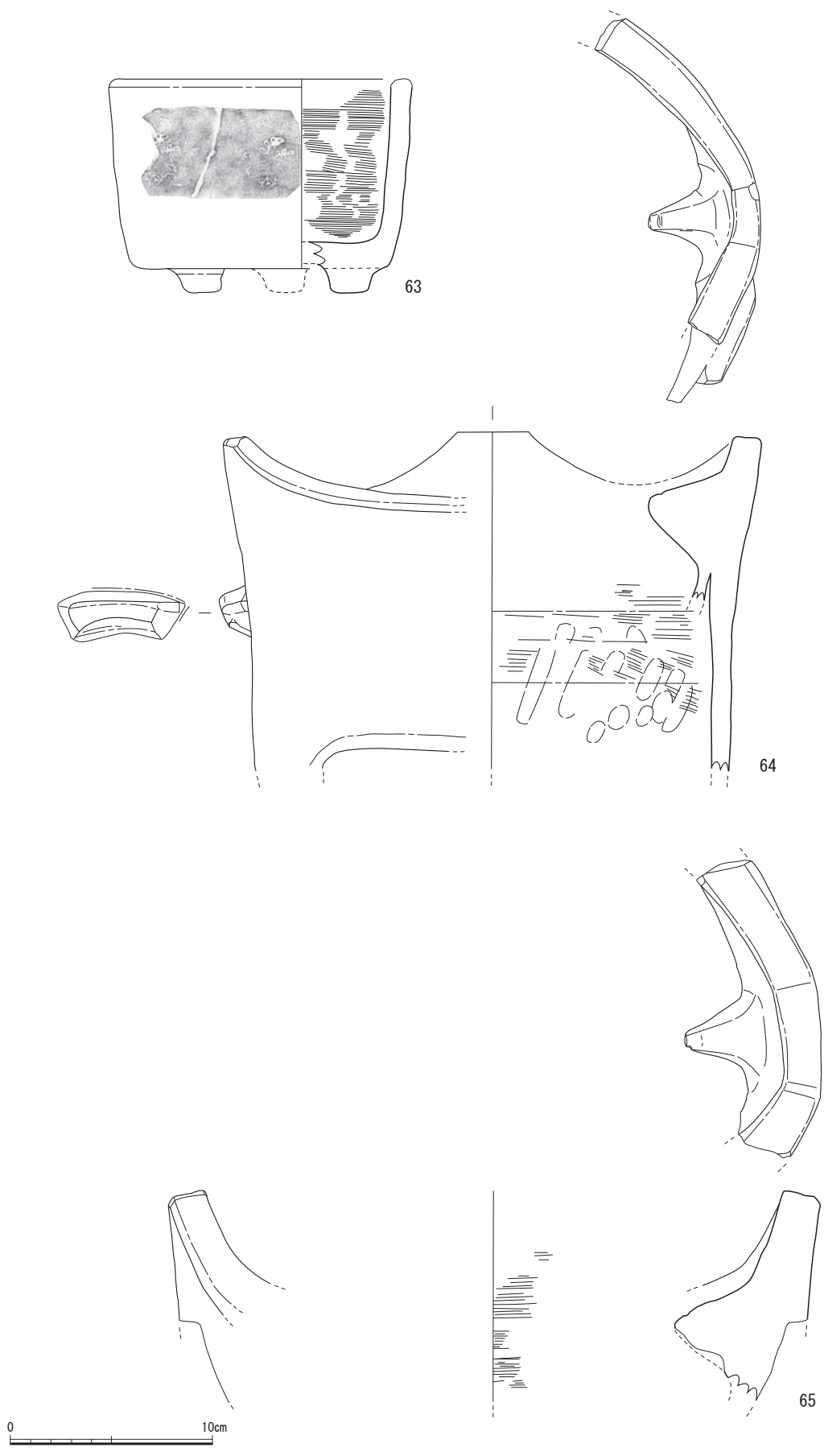
第12図 SD01出土遺物実測図① (1/3)



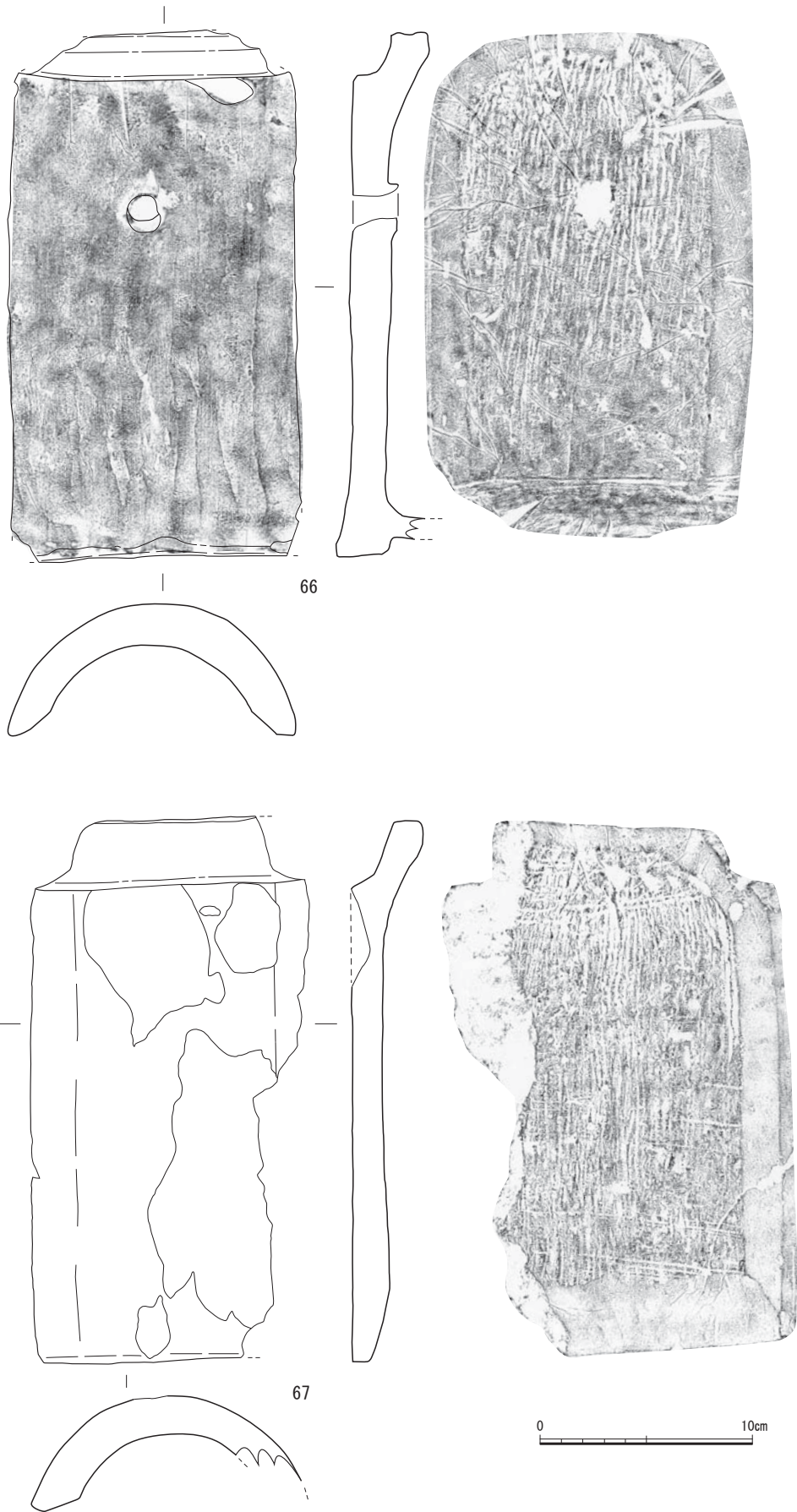
第13図 SD01出土遺物実測図② (1/3)



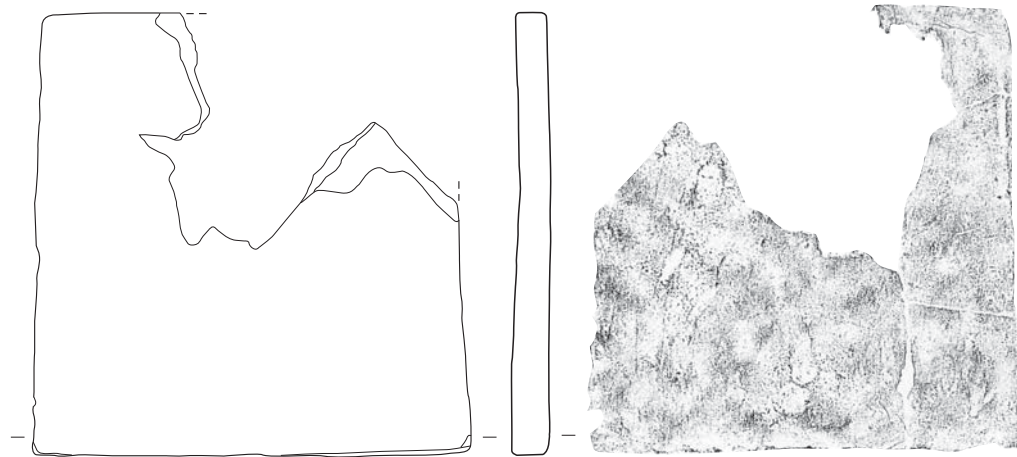
第14図 SD01出土遺物実測図③ (1/3)



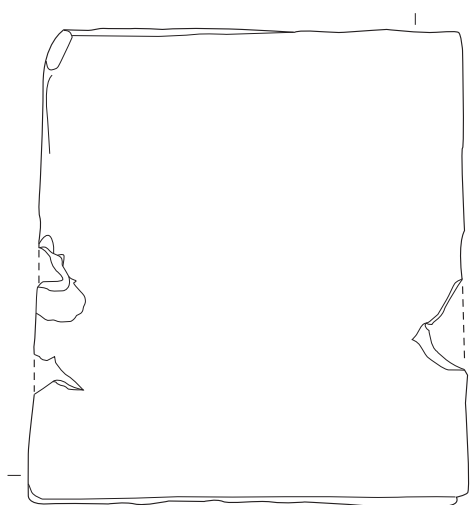
第15図 SD01出土遺物実測図④ (1/3)



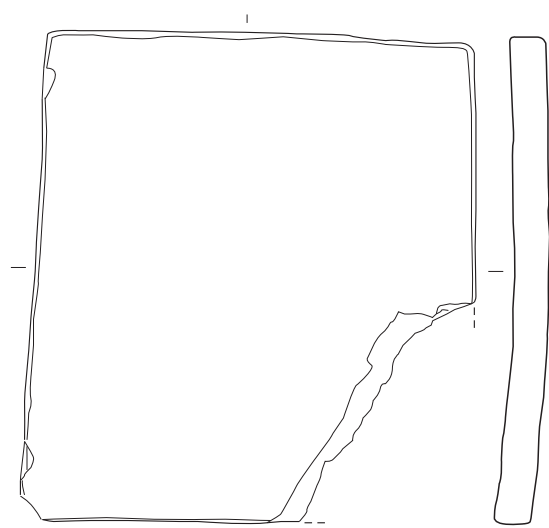
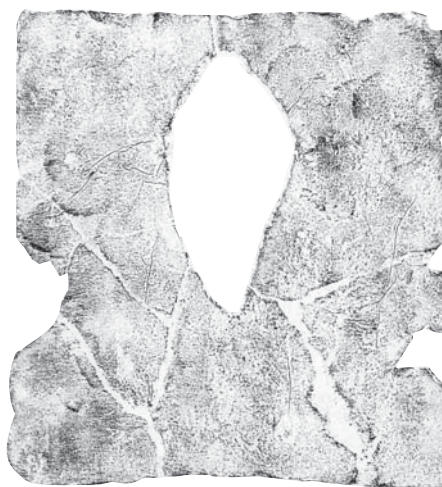
第16図 SD01出土遺物実測図⑤ (1/3)



68



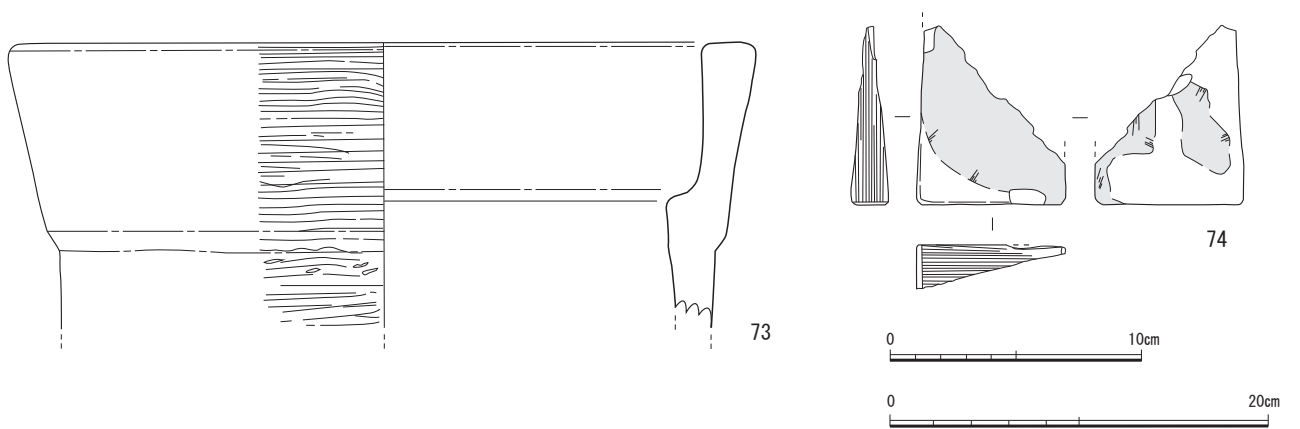
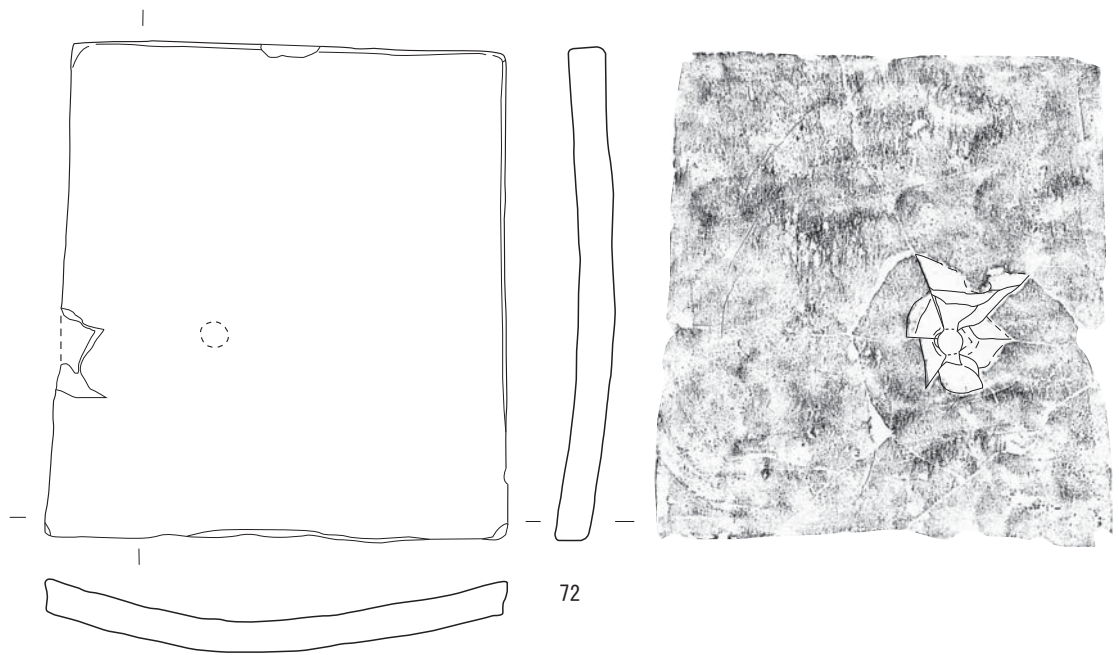
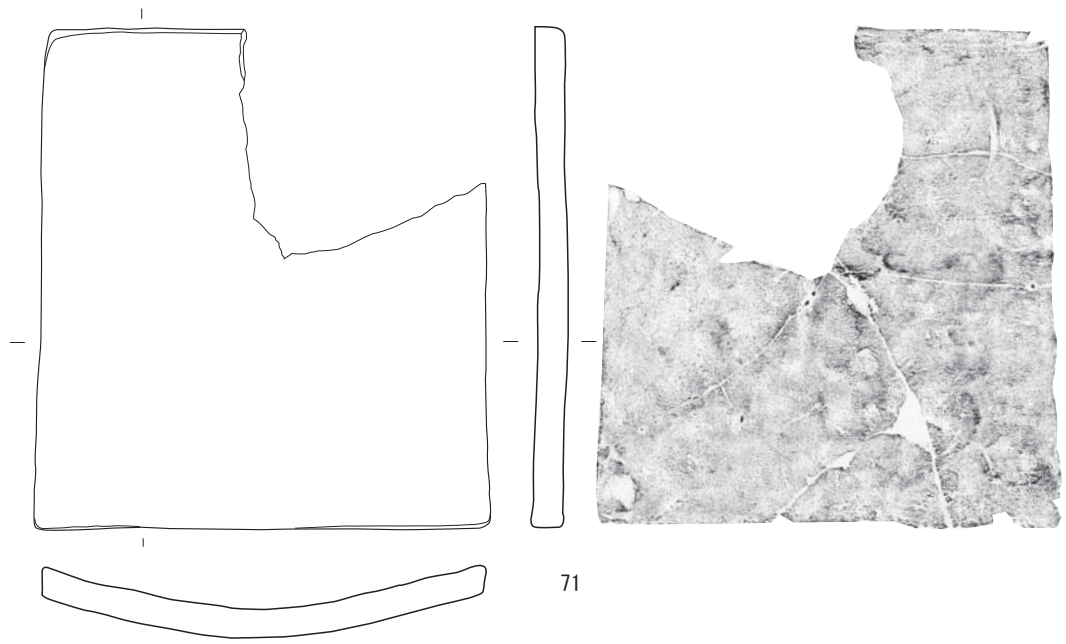
69



70



第17図 SD01出土遺物実測図◎ (1/4)



第18図 SD01出土遺物実測図⑦ (74は1/3、他は1/4)

み部は蛇ノ目釉剥ぎを行う。45の底部は蛇ノ目凹形高台となる。46は内面に植物を描き、外面に青磁釉、口縁部に錆釉を施す。48は外面に唐草、内面に菊花などの植物を描く。底部は蛇ノ目凹形高台となる。49は外面に唐草、内面に墨弾きによる曲線文、見込みに五弁花を施す。50～52は外面に唐草、内面に菊、見込みに簡略化した五弁花を施し、類似性が高い。53は外面に唐草、内面に松竹梅文、見込みに花文を施す。47・54～56は陶器皿。47は内面に銅緑釉を施し、見込み部は蛇ノ目釉剥ぎを行う。54は内面体部に白土による波状文を描いた後、透明釉を施す。さらに蛇ノ目釉剥ぎ状に白土を塗布しているように観察できる。55は白土による波状文・渦文を描く。透明釉は施さない。56は内面～外面上半に白土により刷毛目文様を描き、透明釉を施す。見込み部は蛇ノ目釉剥ぎを行うが、十分に剥ぎ取れておらず、重ね焼きの高台が一部付着している。57・58は播鉢。57は小形品。口縁部が大きく肥厚し、上端は水平気味となる。内面の使用痕はほとんど観察できない。58の見込み周縁部には重ね焼き時の底部接触痕跡が確認できる。底部には砂粒が多く付着する。59は磁器瓶。頸部が細く長く伸び、いわゆる鶴首瓶と呼称される類。外面に竹笹文を描く。60は土瓶蓋。外面は白土の上に竹らしきモチーフを鉄釉で描く。61・62は陶器瓶。いわゆる竹節形瓶。胴部に一對の窪みがあり、窪みの間には粘土粒が付加される。61は餡釉の上に藁灰釉を、62は暗黄灰色釉を施す。

瓦質土器 (63) 63は風炉。体部外面に桐花状のスタンプを巡らす。脚部は1つのみ残存している。

土師質土器 (64・65) 64・65は七輪。ともに体部は二重構造となる。口縁部は富士山形の波状口縁となり、内面波頂部直下には突起を有する。突起より上側の内面については、煤が付着する。

瓦 (66～72) 66は軒丸瓦。瓦当部は欠損する。凸面はヘラナデ、凹面は布目痕が残る。凸面から凹面に向かって釘穴が穿たれている。67は丸瓦。凸面はヘラナデ、凹面は布目痕が残る。68～72は平瓦。いずれも木口や側縁は面取り調整を行う。凹面凸面ともにヘラナデを基本とし、表面は燻されている。70は他の瓦と比べ、胎土に多量の雲母を含む。72は釘穴が穿たれ、その周囲に鉄錆が付着している。

陶製品 (73) 73は陶製土管。外面に荒いカキメ状の工具痕が残る。内外面とも薄く褐釉を施す。

石製品 (74) 74は砥石。表面はよく使用され、極めて平滑であるのに対し、裏面は一部（アミカケ部）だけ平滑になっている。側面には明瞭な条線が残る。板状砥石の欠損後、再利用した可能性が高い。粘板岩製。

SD02 (第23図、図版5)

調査区やや北西側に位置する。西側は調査区外に続き、東側はSD01と垂直に接する。長さ6.5m以上、幅0.6m～1.5mを測る。SD01とは、平面精査で切り合いが確認できなかった点、垂直に接するものの貫通しない点から判断して一連の遺構と理解したい。底面のレベルは東端・西端でほとんど差がない。埋土は黒褐色土の単層であるが、部分的に底面に接して薄く暗灰色粘質土の堆積が見られた。

遺物としては、少量の陶磁器が出土した。

出土遺物（第19図、図版12）

陶磁器（75） 75は磁器小椀。外面3カ所にコンニャク印判で施文する。

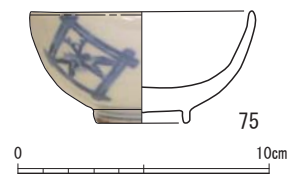
SD04（第3図、図版5）

調査区やや北隅に位置する。東側は調査区外に続き、長さ3.5m以上、幅0.4m～0.7mを測る。東側はピット状に深くなる部分があるが、これ以外の場所では深さ15cm程度、底面のレベルは大きく変化しない。溝の西端は止まっているように見えるが、遺構面が低くなっているため、削平による消失の可能性が高い。埋土は暗褐色土（浅黄褐色土ブロック・橙色土ブロック・炭化物含む）の単層であった。

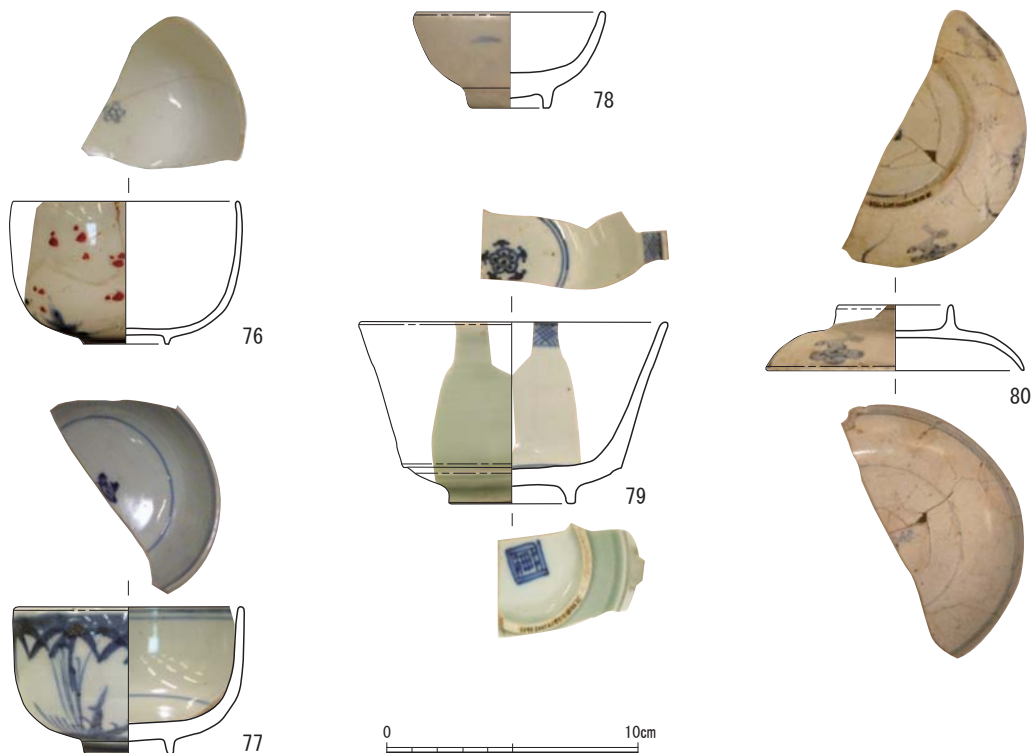
遺物としては、陶磁器・瓦質土器・瓦等が出土した。

出土遺物（第20図）

陶磁器（76～80） 76～79は磁器椀。76は色絵。松のみを染付（下絵付け）で描き、梅、竹、鳥は色絵（上絵付け）で描く。色絵部分は剥落し、肉眼で微かに確認できる程度である。見込みには簡略化した五弁花をコンニャク印判で施す。他の磁器に比べ、器壁が薄い。77は外面に竹を描き、見込みには簡略化した五弁花をコンニャク印判で施す。78は小椀。呉須による文様がみられるがモチーフは不明。79は外面青磁釉を施し、見込みに五弁花、底部外面に銘款を有する。80は椀蓋。外面に丁子および菊と思われるモチーフを描く。見込みおよび外底面の銘款は判読できない。



第19図 SD02出土遺物実測図 (1/3)



第20図 SD04出土遺物実測図 (1/3)

SD05 (第23図)

調査区西隅に位置する。北端、南端、さらに西側の上端も調査区外に続くため、規模を確定できないが、長さ5.5m以上、幅1.5m以上、遺構面からの深さは南端で55cmを測る。平面形はやや曲線を描くが、SD01の西側上端を基準とすれば概ね並行する。底面のレベルは、南側に向かうにつれ低くなる傾向があり、レベル差は15cm程度である。埋土は黒褐色土(10YR3/1)の単層を基本とする。攪乱によって分断されていたため、検出時には同一遺構とは認識せず、北端をSX01、これ以外をSX02として呼称し、遺物の取り上げも行っている。

遺物としては、陶磁器・瓦質土器・瓦・轆の羽口・土製人形・石炭などが出土した。

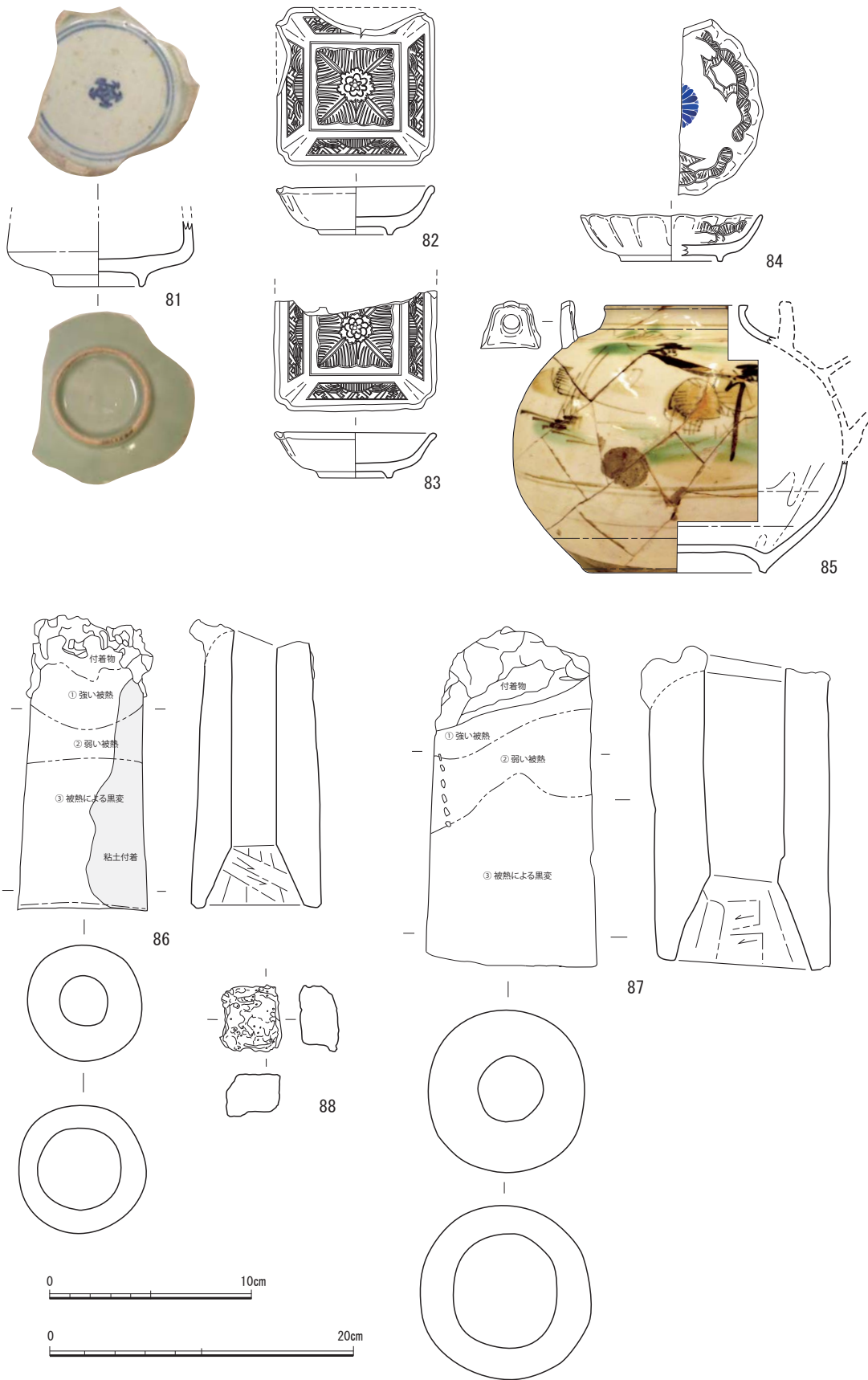
陶磁器 (81～85) 81は磁器筒形椀。外面に青磁釉を施し、見込みには簡略化した五弁花をコンニャク印判で施す。82・83は白磁角小皿。糸切り細工成形。型押しによって、内面には草花などのモチーフを繊細な凸線で表現している。84は磁器小皿。型打ち成形。型押しによって内面体部に松が凸線で描かれ、見込みにはコンニャク印判による菊文が施されている。85は陶器土瓶。外面に白土を掛け、鉄釉や緑色釉などで山水文を描く。透明釉は内面から外面底部付近まで施す。

土製品 (86・87) 86・87は轆の羽口。86は後端部径8.4cm、87は後端部径11.4cmを測り、穴の直径を含めてサイズが大きく異なる。先端部(挿入部)については、いずれも破断面にガラス質の滓(表面に砂粒を多く含む)が明瞭に付着している。後端部から中ほどにかけて、煤のためか黒化している。炉体と接する部分は被熱が弱く、炉体の内側にあたる部分(先端部・挿入部)は強く被熱している。胎土については、いずれも金雲母を多く含むことが特徴といえる。86の側面には一部粘土が付着(アミカケ部分)しているが、被熱後の付着のように観察できる。

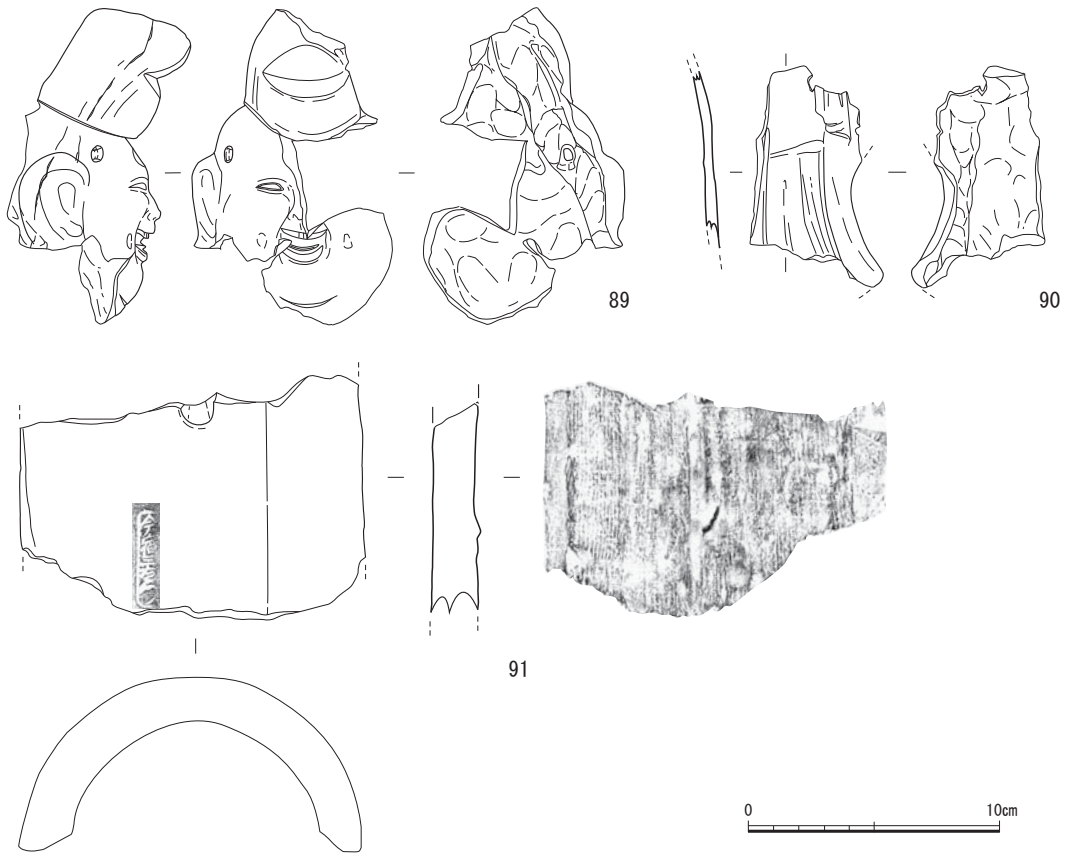
鉄滓 (88) 88は鉄滓。3.0cm×2.6cm×1.8cmの方形を呈し、重さは20gを測る。砂粒はほとんど付着しておらず、発泡も少ない。弱い着磁性を帯びる。

土製人形 (89・90) いずれも博多人形。89は烏帽子恵比須の頭部で2枚型により成形される。側辺の烏帽子から耳にかけて縦方向の接合痕があり、内側は扁平な粘土紐が裏充てされている。立烏帽子は前部にくびれがあり、こめかみ付近に烏帽子の紐を挿入する穿孔がある。耳は大きな福耳で頬はやや下ぶくれで、笑窪があり、眼は細身の半月形でやや目じりが下がる。口は横に開き、上の歯が表現される。色調はにぶい黄橙色を呈し、胎土は精良で微細な白色砂粒、金雲母を微量に含む。眼や口の彫りのエッジは比較的シャープで、型は鈍った状態のものではない。高さは35cm位に復元される。意匠のオリジナルは京都伏見人形にあるが、同型のものと思われる製品が博多祇園町の旧中ノ子工房であった博多遺跡213次調査で出土しており、同家の製品である可能性が高い。90は型作りで成形された女性の立ち姿である。振袖の部分の破片で、高さは35cm位に復元される。焼成は芯がやや黒味を帯びるが、胎土は89と同じく精良である。意匠のオリジナルは京都伏見人形にあるが、これも博多遺跡213次調査で類例が出土しており、胎土の特徴などから中ノ子系統の製品であろう。

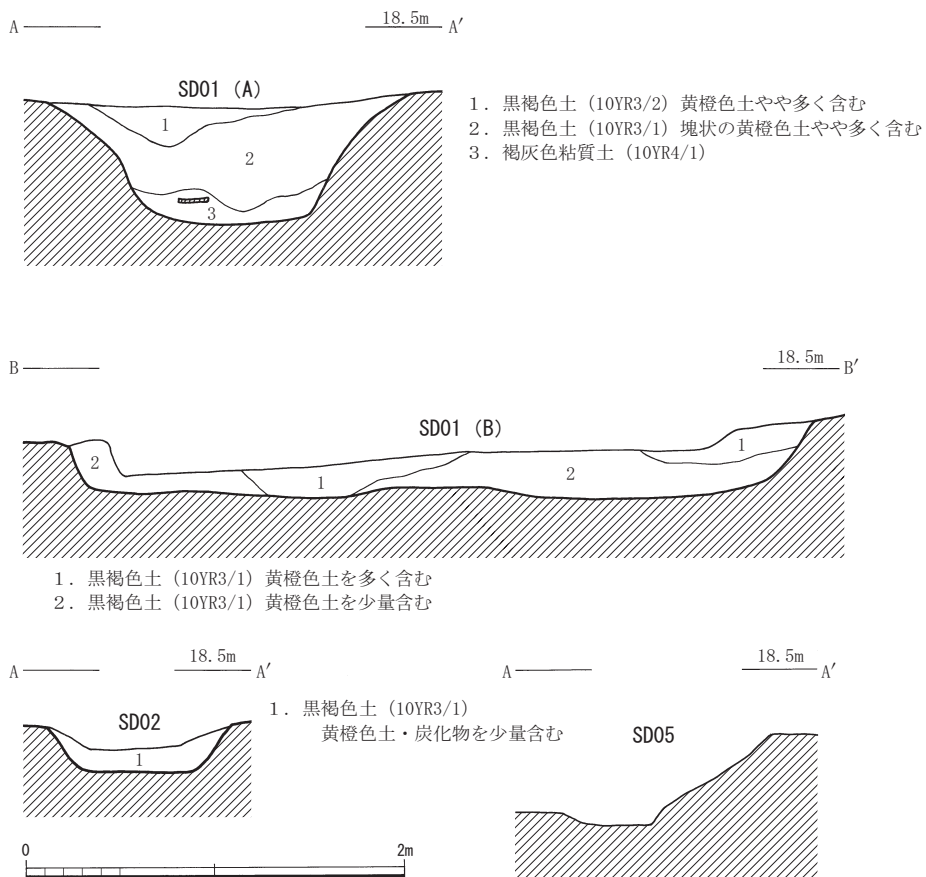
瓦 (91) 91は丸瓦。凸面はヘラナデ、凹面は布目痕が残る。凸面から凹面に向かって釘穴が穿たれている。凸面に「今宿三右衛門」銘の刻印がある。



第21図 SD05出土遺物実測図① (86・87は1/4、他は1/3)



第22図 SD05出土遺物実測図② (1/3)



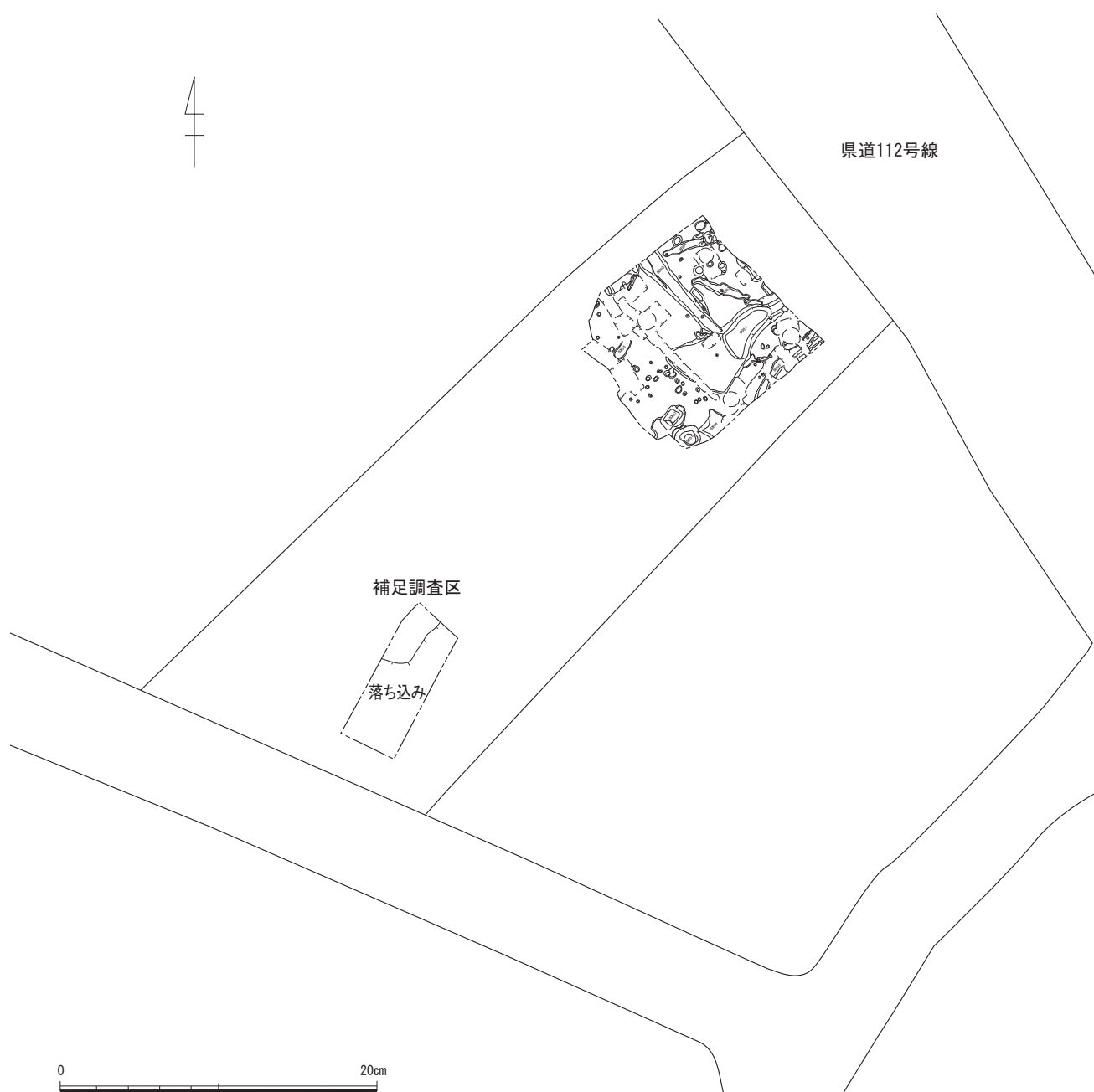
第23図 SD01・02土層実測図、SD05断面実測図 (1/40)

3. 補足調査の成果

I章でも述べたとおり、試掘調査の結果、事業地北東側に近世～近代遺構が分布し、これ以外の範囲では、近代以降の遺構しか確認できなかった。

このため北東側のみを本調査対象としたが、試掘調査の際に南隅付近でも大形の落ち込みを確認した。埋土（検出面）から近代の遺物が出土したものの、その性格を把握するため、部分的な補足調査を行うこととなった。

調査の結果、落ち込みは、幅6 m以上、深さ2 m以上を有し、土層観察の結果、滞水の痕跡も見られた。位置関係（第1図）を考慮すると、江戸時代に掘削された運河「新川」である可能性が高いが、現時点では断定することはできない。今後の周辺調査の成果に期待したい。



第24図 補足調査区位置図 (1/400)

IV. 第1次調査の成果

1. 報告書作成までの経緯

雑餉隈遺跡第1次調査地点は、大野城市雑餉隈町3丁目15-4に所在する。昭和63年10～12月に大野城市教育委員会が発掘調査を実施し、近世の遺物がまとまって出土した。

整理作業は、平成22年度に(株)埋蔵文化財サポートシステムに委託し、遺物の洗浄、接合、選別、実測、製図、観察表作成などを行った。しかしながら、調査経緯を含めた基本情報、調査時の写真や図面等の所在を確認できず、報告書としての体裁を整えることができなかったため、刊行が遅れることとなった。

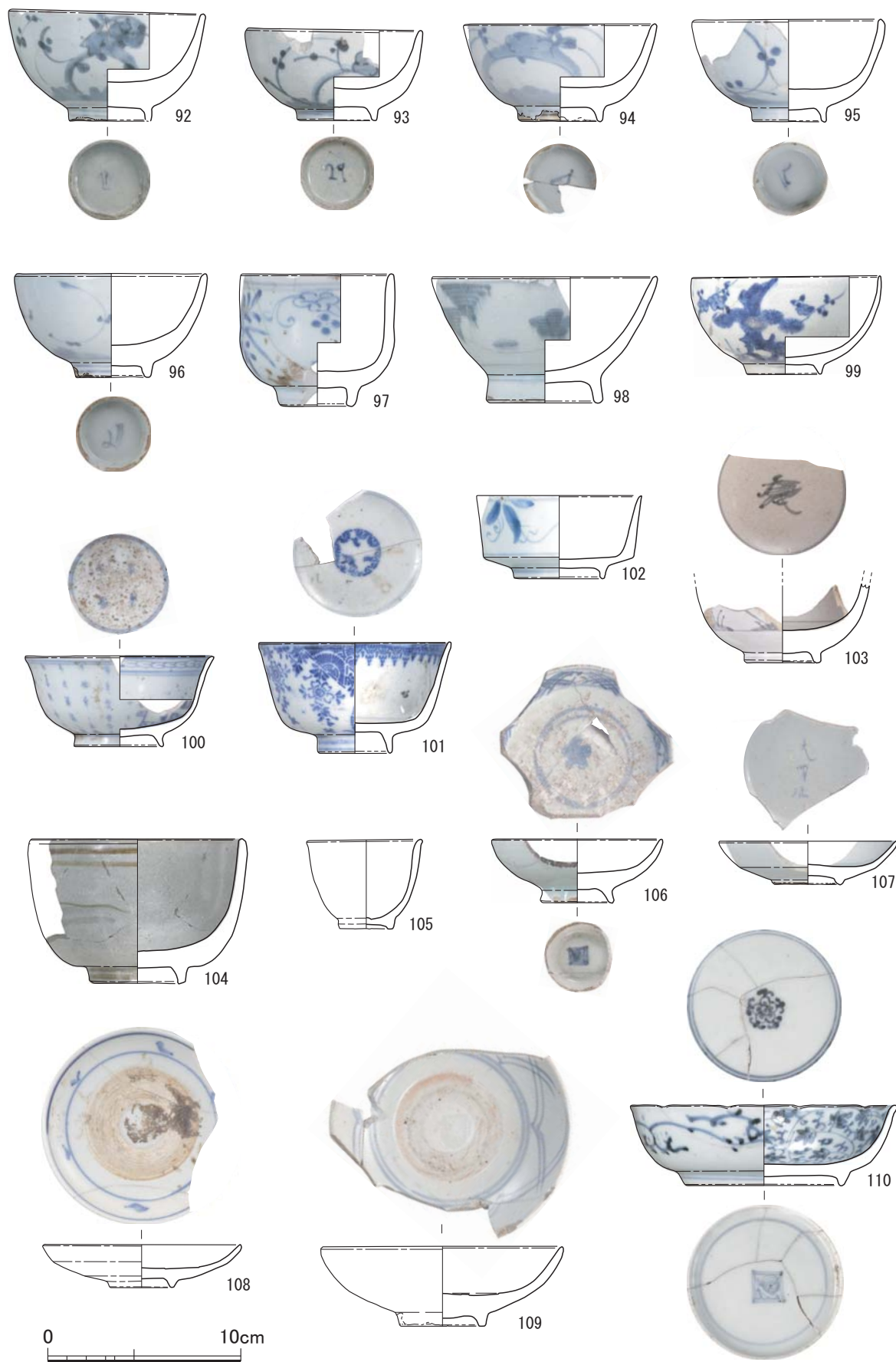
現時点にいたっても、写真・図面等を確認できておらず、報告書として不十分な形であるが、第3次調査の成果と関連させた位置づけが可能であること、また更なる刊行の遅れを避けたいという理由から、本書の中で報告を行う。経緯についてご理解いただきたい。今後、このようなことがないよう調査関連資料の保管には万全を期すとともに、写真・図面等が確認された際には、機会を改めて紹介したい。

出土遺物はパンコンテナ10箱であり、近世の陶磁器類を主体として、奈良時代の須恵器・土師器・瓦が少量含まれている。なお、遺物の取り上げラベルには、遺構に関する情報は記載されておらず、包含層出土資料であった可能性が高い。

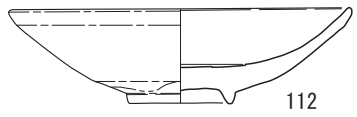
先述したとおり不十分な報告ではあるが、昭和63年段階では近世遺跡の調査はほとんど実施されておらず、本調査の実施自体、重要な取組みであったと理解することもできよう。

2. 出土遺物

陶磁器 (92～132) 92～102は磁器碗。92～96は所謂くらかわんか碗。いずれも外面に梅樹を描き、高台内に銘款を持つ。97は外面に花文を描く。98は広東碗。外面に花文などを描く。99は外面に松竹梅文を描く。100は端反碗。外面に詩句などを描き、見込みに永楽年製の銘を持つ。内面は降灰が著しい。101は型紙摺で花文などを描く。102は筒型碗。外面に植物を描く。通常の筒型碗より器高が低い。103・104は陶器碗。103は陶胎染付。外面に植物、見込みに昆虫文を描く。104は鉄釉で施文するが、モチーフは判然としない。105は磁器小杯。無文であり、底部に砂粒が付着する。106～111・113・114は磁器皿。106は外面に青磁釉、見込みに簡略化した五弁花文を施し、高台内に渦福を描く。内面は降灰が著しい。107は見込みに「大明成」の文字を描く。108・109の見込み部は蛇ノ目釉剥ぎ。109の外面は釉の溶けが悪いのか、痘痕状に露体部が確認できる。110・111は型打ち成形で作られ、内面に牡丹唐草、外面に唐草を描く。110は見込みに丁寧な五弁花文、高台内に渦福を施す。112は陶器皿。見込み部は蛇ノ目釉剥ぎ。113は内外面青磁釉を施し、見込み部は蛇ノ目釉剥ぎ。114は三つ足付きの青磁皿。口縁部は外方に折れ、上面は平坦部を形成する。内面には片彫りで植物(椿?)を描く。高台畳付には鉄銹を施す。高級製品に位置づけられる。115は磁器



第25図 第1次調査出土遺物実測図① (1/3)



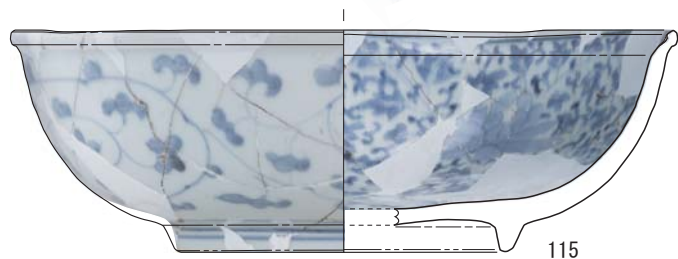
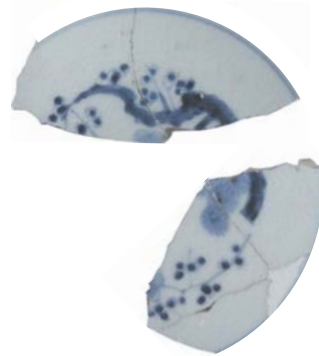
112



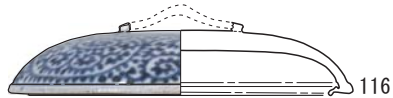
114



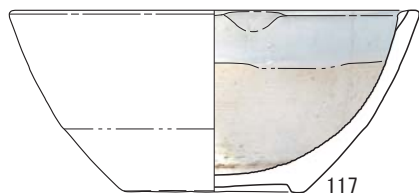
113



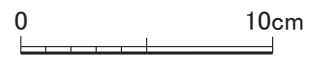
115



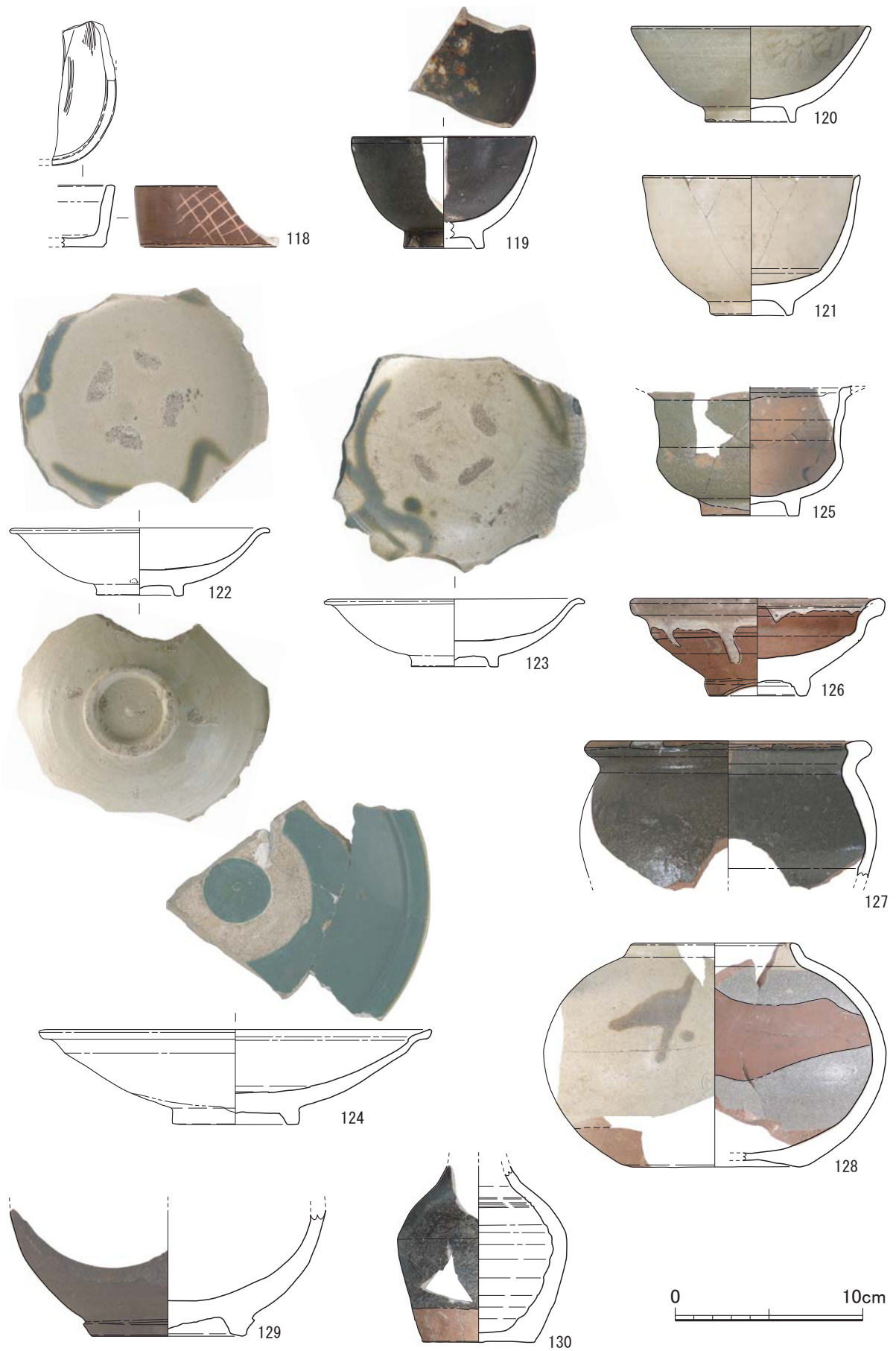
116



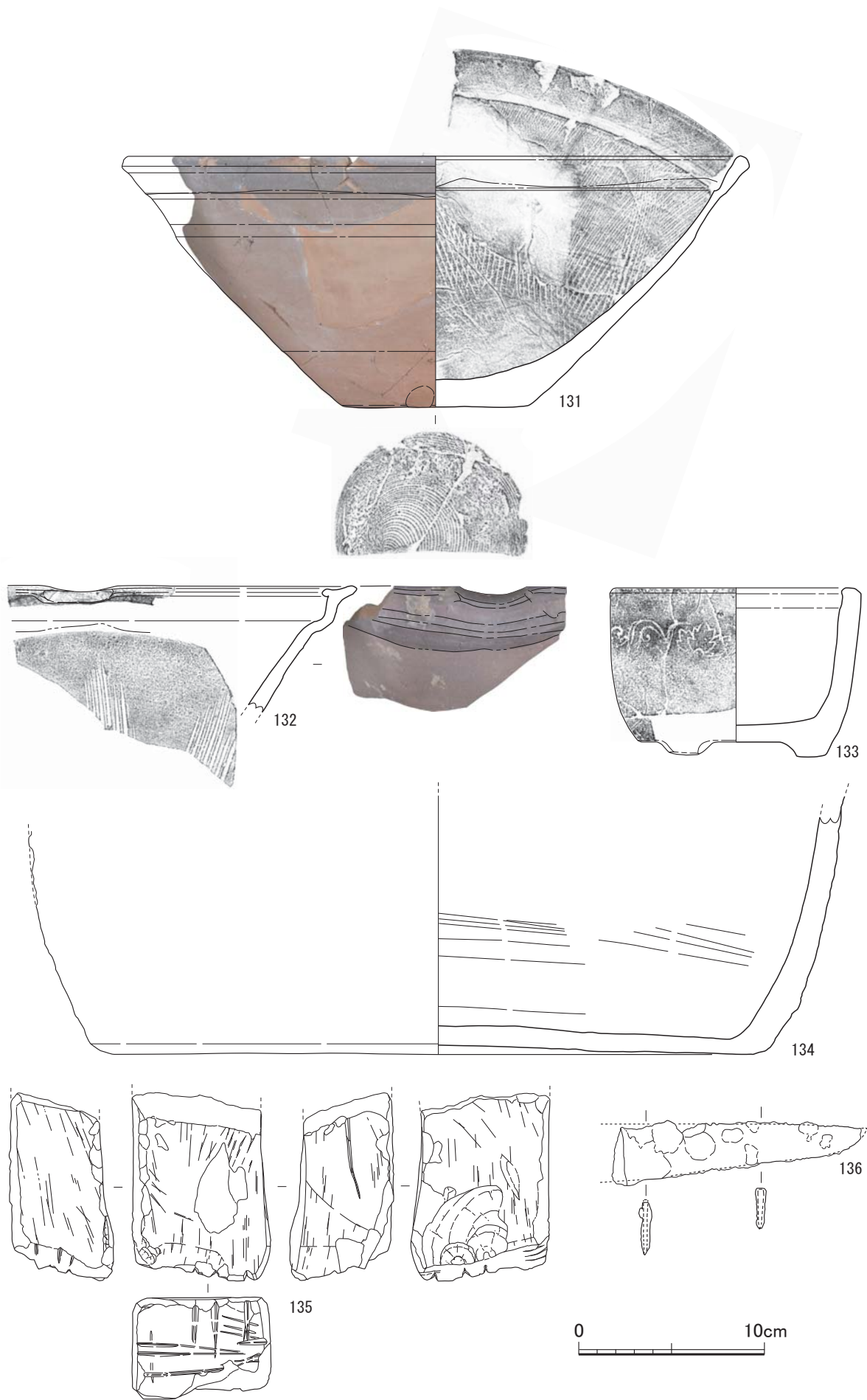
117



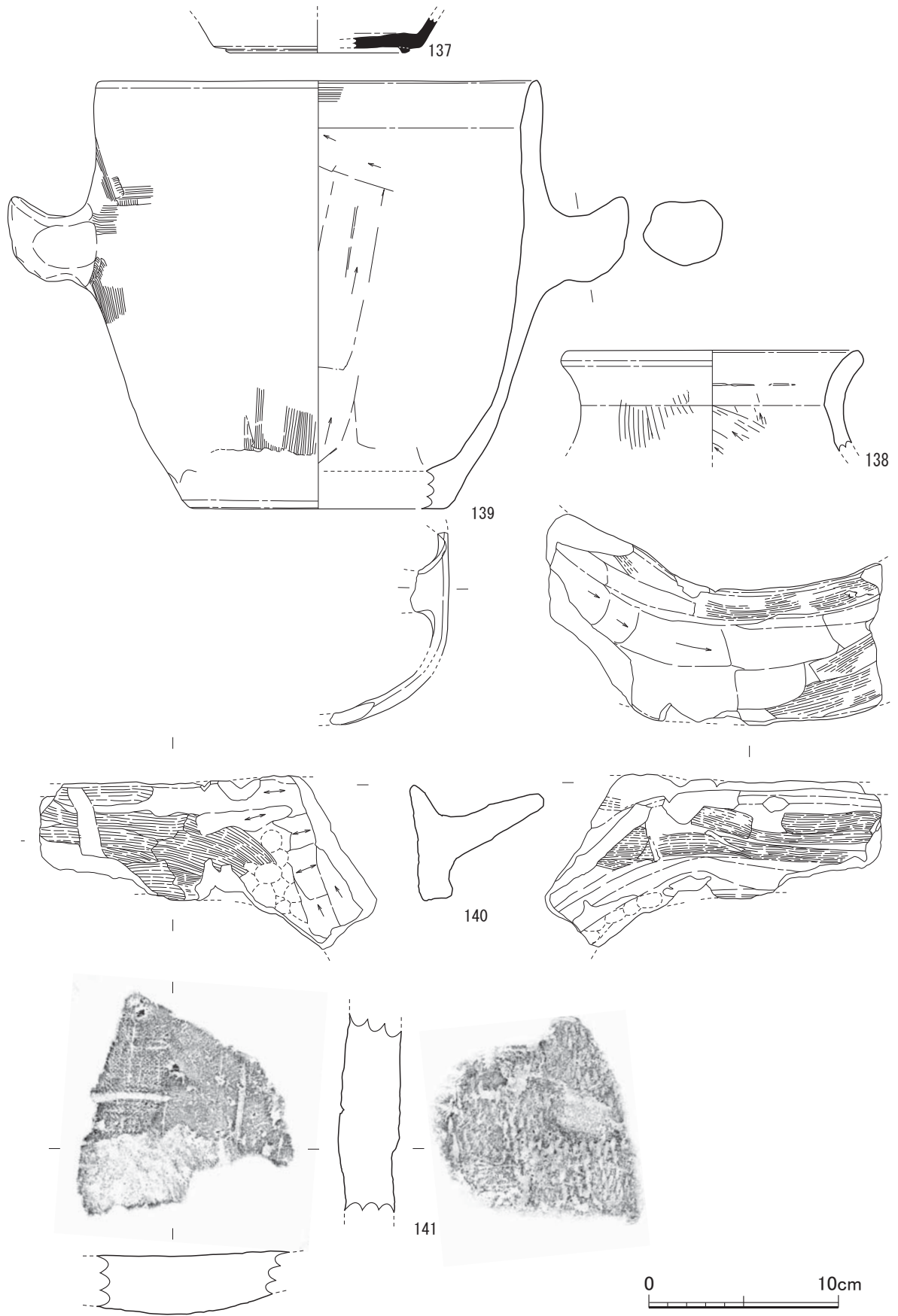
第26図 第1次調査出土遺物実測図② (1/3)



第27図 第1次調査出土遺物実測図③ (1/3)



第28図 第1次調査出土遺物実測図④ (1/3)



第29図 第1次調査出土遺物実測図⑤ (1/3)

鉢。あるいは大皿に分類すべきであろうか。内面に牡丹唐草、内面に花唐草、見込みに梅竹梅文を描く。116は磁器鉢蓋。外面に蛸唐草を描く。身受部のみ露胎。つまみ部は欠損している。117は磁器捏鉢。片口を持つ。口縁部内面付近～体部外面半ばまで白磁釉を施し、これ以外は露胎となる。内面は、ロクロ回転に伴うカキメが顕著に確認できる。118は磁器餌猪口か。平面楕円形を呈する。外面に光沢のない褐色釉、内底部から体部内面にかけて透明釉を施す。焼成後、外面に線刻で斜格子状の文様を描く。119～121は陶器椀。119は内外面に黒色釉を施すが、高台内は露胎。120は内外面に緑色がかかった釉を施し、内面に鉄釉で菊文を描く。121は関西系陶器。122～124は陶器皿。122・123は内面に銅緑釉を掛けたのち、透明釉を全面に施す。見込みには4カ所の砂目跡が確認できる。124は内面に銅緑釉、外面体下半まで透明釉を施し、見込み部は蛇ノ目釉剥ぎ。125・126は陶器火入。125は器高の高いタイプ。外面に暗緑黄色釉、口縁部内面に鉄釉を施す。126は皿形に近いタイプ。高台には3カ所の割り込みを持つ。口縁部内外面に藁灰釉を施す。127は鉢。内外面に飴釉を施し、口縁部上面は拭き取っている。128は土瓶か。注口部は欠損している。底部は碁笥底となる可能性が高い。口縁部内面から外面体部下半分にかけて化粧土を施し、一部鉄釉を掛ける。129は甕。内外面に褐釉を施す。130は瓶。外面に黒釉を施す。131・132は陶器播鉢。いずれも口縁部付近のみ鉄釉を掛ける。131は底部糸切り。内面には9条1単位の播目が密接して施される。見込み付近では使用による磨耗が顕著である。132の播目は7条1単位。間隔を空け施されている。

土師質土器 (133) 133は火鉢。外面4カ所に花文を有し、これを唐草で繋ぐ。低い脚部を持つ。内面は被熱が顕著である。

瓦質土器 (134) 134は甕。内面にはハケメが残る。

石製品 (135) 135は砥石。4面は使用により平滑となり、小口面には深く鋭い使用痕がある。砂岩製。

鉄製品 (136) 136は刀子であろうか。長さ13.4cm 残存するが、全形は不明である。

須恵器 (137) 137は杯身。低い高台を有する。

土師器 (138～140) 138は甕。胴部外面はハケメ、内面はケズリを施す。139は甑。外面はハケメ、内面はケズリを施す。底部には棧が一部残り、二孔式であることがわかる。140は移動式カマド。上縁部・底部・焚口部が確認できる。内外面ともにハケメが残る。内面および底部下面は煤が付着している。

瓦 (141) 141は平瓦。凸面に縄目タタキ痕、凹面に布目痕を有する。土師質に焼成されている。

V. 総括

1. 遺構・遺物の年代

第3次調査では、SX05から奈良時代中頃～後半の須恵器、SE01、SX06・07、SD01・02・04・05からは、江戸時代の陶磁器・瓦質土器・瓦・土製人形などが出土した。陶磁器の年代・産地としては、いわゆる「くらわんか椀」や筒型湯飲椀、外面青磁や見込みの五弁花文、関西系陶器（京焼風陶器）に代表される18世紀代後半の肥前産陶磁器が主体となる。

第1次調査では、江戸時代の陶磁器・瓦質土器・鉄器、奈良時代の須恵器・土師器（甕・甑・移動式カマド）・瓦などが出土した。陶磁器の年代としては、第3次調査と同じく「くらわんか椀」など18世紀代が主体となる一方、砂目積みの陶器皿（122・123）、三つ足付きの青磁皿（114）、播目の単位間隔を空けた播鉢（132）、火入れ（125・126）など、確実に17世紀後半までさかのぼる遺物も散見される。また19世紀に位置づけられる蛸唐草文や明治時代以降の型紙摺もわずかながら出土しており、第3次調査よりも年代幅が認められる。

2. 奈良時代の雑餉隈遺跡

第3次調査では、大きく削平された奈良時代の土坑（SX05）が検出され、第1次調査でも同時期の須恵器・土師器が少なからず出土している。またすでに報告されている第2次調査地でも、包含層から奈良時代の須恵器（杯・長頸壺）が確認されている。わずかな調査面積である上、削平のためか遺構は僅少であるが、遺物の分布状況から判断する限り、本来、広い範囲に遺構が展開していたと推察できよう。一方、古墳時代や平安時代の遺構・遺物は皆無であり、突如集落が営まれ、短期間のうちに消滅した感がある。

こうした現象は、本遺跡から1.5kmの範囲内にあたる福岡市雑餉隈遺跡、麦野A遺跡、麦野B遺跡、麦野C遺跡、南八幡遺跡などで顕著である。これらの遺跡では同時期の大規模集落が確認され、その成立については官的な性格も指摘されている。今回の調査成果は、一連の大規模集落と本遺跡の有機的な関連を示唆するものであり、大宰府周辺～福岡平野東部（御笠川流域）の集落動向を検討するうえでも興味深い。

3. 江戸時代の雑餉隈遺跡

1) 間の宿 雑餉隈

雑餉隈遺跡が所在する一帯は、江戸時代に博多と日田をつなぐ街道「日田街道」（別名：博多街道）沿いに開けた集落「雑餉隈」に相当する。この雑餉隈は、博多と太宰府・二日市の間に位置し、宿場と宿場の間に位置する「間の宿」（あるいは「半宿」）として茶店や宿が軒を連ね、藩主の休憩施設「御茶屋」も設置されていたことが知られている。なお旧村名では、井相田村・筒井村・山田村の境界付近あたり、一つの集落でありながら、本質的には3カ村の枝村（第3次調査地点は筒井村、第1次調査地点は井相田村）に分かれていたことも特色といえる（第30図）。

江戸時代の様子について、『筑前国続風土記』では「宰府へゆく大路に町あり。（中略）此の所宰府参詣の人の足休むる所にて、酒食を品々あきなふ肆ある故、雑餉隈と名付けるにや」と記され、また『筑前名所図会』では「山田村、筒井村、井相田村の堺なり。此の里は博多より二里、太宰府より二里にて宿駅の如し。茶店酒肆ありて賑わしき所なり」と記されている。当時、純農村であった大野城市域の中で特色ある集落景観であったことが理解できよう。

2) 出土遺物の特徴

第3次調査での特徴的な遺物として、瓦（丸瓦・平瓦）の出土が挙げられる。瓦の出土量は67.3kg、重量比で全遺物の49.8%を占め、瓦葺の建物が存在したと想定できる。江戸時代前期まで、瓦の使用はごく一部の建物に限られていたが、相次ぐ大火を受けて、福岡藩では元文5（1740）年に瓦葺の奨励策を講じている。これによって、一般町人の家屋でも利用が開始されるが、周辺遺跡

を見渡す限り、18世紀代での普及率は決して高くないようである。瓦葺建物の存在は、先進性の高い宿場的・町屋的な景観を示唆するものとして重要といえよう。また出土瓦の中には、「今宿三右衛門」銘の刻印がある丸瓦(91)も含まれている。今宿三右衛門は、いわゆる「今宿瓦師」の系譜であり、同銘の刻印瓦は福岡城で約30点出土している(註1)。当地域が、博多・福岡を中心とする瓦の流通圏内であることを示すものと考えられる。

瓦以外でも大形の土製人形(博多人形)(24・25・89・90)や二重構造の七輪(64・65)(第31図)も博多との関連を想起させる遺物であり、鞆の羽口や石炭(68点、2.1kg出土)(図版14)などを含め、本調査地点を特徴付ける遺物といえよう。

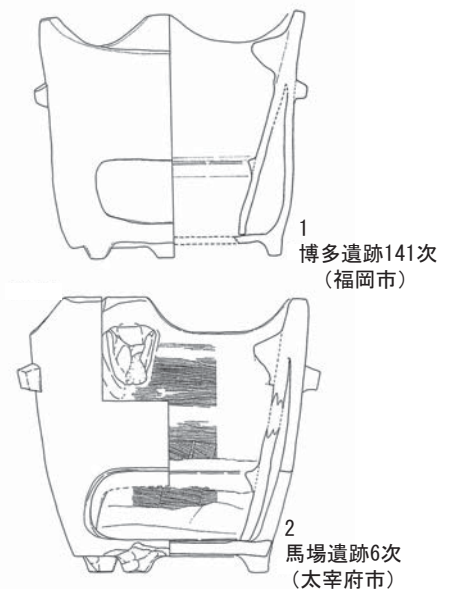
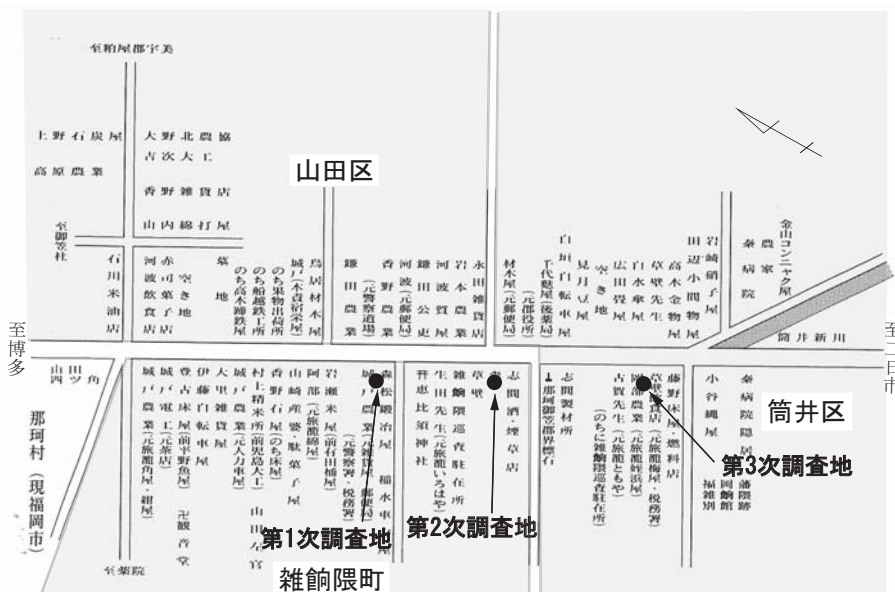
第1次調査地点では、三つ足付きの青磁皿(114)が高級製品として注目される。またこれ以外にも型打ち成形の染付皿(110・111)や大型の染付鉢(115)など比較的上質な資料も含まれており、今後、調査地点ごと、遺跡ごとの食器相を比較する上で興味深い。

3) 雑餉隈集落の成立時期とその背景

第1～3次調査の結果、第1次調査(井相田村の範囲)では17世紀後半から、第2次調査(井相田村の範囲)では18世紀前半(一部17世紀に遡る可能性)から、第3次調査(筒井村の範囲)でも同じく18世紀前半から遺物が確認できる。つまり、現状では17世紀後半から集落が形成され、18世紀代にかけて拡大したと理解できよう。

また山田村についても、御笠の森遺跡の調査成果(註2)および『筑前国続風土記拾遺』の記録によって、17世紀後半(1670年代)に「御笠の森」周辺から日田街道沿いに集落が移転したことが明らかとなっており、本遺跡の調査成果とも整合的である。こうして考えると、3カ村の枝村がほぼ同時期に1カ所に集まり、「雑餉隈」集落を形成させたという姿が想起できる。

集落の成立要因については、いくつかの想定が可能であるが、17世紀後半は福岡藩が街道筋の整備を積極的に進めていた時期にあたり、街道沿いに集落を形成(移住)させる必要があったとの指摘がある(註3)。こうした指摘と唐突に感じる雑餉隈集落の成立は調和的といえ、自然発生的な集落と理解するより、街道筋の整備という藩の政策に基づくものと解釈することが妥当であろう。



第30図 昭和初期頃の雑餉隈町・山田・筒井の街並みと発掘調査地点 第31図 二重構造七輪の類例(1/8)
(註4を一部改変)

註1 赤坂亨ほか 2017「近世刻印瓦集成 福岡県」『幕藩体制下の瓦 資料集』第66回埋蔵文化財研究集会
 註2 大野城市教育委員会 2005『御笠の森遺跡Ⅱ』大野城市文化財調査報告書
 註3 江藤彰彦 1998「近世前期の都市と農村」『福岡県史 通史編 福岡藩(一)』西日本文化協会
 註4 赤司岩雄 2002『大野城市巡杖記 山田・雑餉隈町・栄町・下筒井・上筒井区編』

第3次調査

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径 ※(復元値)〈残存値〉	形態・技法・文様の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
1	陶器	椀	SE01	②<3.6>	内外面施釉 白土による刷毛引き	A:精良 B:良好 C:釉灰色5Y 6/1~灰白色5Y7/1 胎土灰色5Y5/1	
2	磁器	皿	SE01	②3.4	内外面施釉 外面唐草文 内面モチーフ不明	A:精良 B:良好 C:釉明青灰色5B7/1 胎土灰白色7.5Y8/1	
3	木製品	曲物底材	SE01	径17.1~17.9 厚さ1.1~1.5			
4	木製品	曲物底材	SE01	径(21.2) 厚さ0.6~1.3			破断面に2カ所の釘穴
5	須恵器	杯蓋	SX05	②<1.05> つまみ径2.25 つまみ高0.55	内外面回転ナデ	A:砂粒を含む B:良好 C:灰色N6/	
6	須恵器	杯身	SX05	②<1.0>	外面ヘラケズリ 内面磨滅により調整不明	A:微細~2mm以下の黒色・白色砂粒を含む B:良好 C:灰黄褐色10YR6/2	
7	須恵器	杯身	SX05	②<3.5>	内外面回転ナデ	A:微細の黒色砂粒を含む B:良好 C:黄灰色2.5YR6/1	
8	陶器	椀	SX06	①11.0 ②5.0 ④3.9	内外面施釉後に蛇ノ目釉剥ぎ 白土による刷毛引き 高台端部 内面砂付着	A:精良 B:良好 C:釉黒褐色10YR 2/3~にぶい黄褐色10YR7/2 露胎暗赤褐色5YR3/4	
9	陶器	椀	SX06	①(9.4) ②5.1 ④(4.0)	内面~外面下位施釉 外面鉄釉による竹筵文	A:精良 B:良好 C:釉淡黄色2.5Y7/4 露胎淡黄色2.5Y7/3	関西系陶器 18c
10	陶器	椀	SX06	①9.4 ②5.95 ④3.6	内面~外面下位施釉 外面鉄釉による文様 底部内面砂付着	A:精良 B:良好 C:釉灰オリーブ色5Y6/2 露胎にぶい黄橙色10YR6/3	関西系陶器 18c
11	磁器	猪口	SX06	①(7.2) ②2.65	内外面施釉 無文 底部内面に焼成時の黒変	A:精良 B:良好 C:釉灰白色10Y8/1 露胎灰白色7.5Y8/1	18c
12	磁器	角皿	SX06	①6.2 ②2.1 ④3.7	糸切り細工成形 内外面施釉 外面折れ松葉文 内面紅葉文	A:やや良 B:良好 C:釉灰白色5Y8/1 露胎灰白色5Y8/1	
13	磁器	皿	SX06	①(17.2) ②2.9 ④(10.6)	型打成形 口縁部輪花 内外面施釉 外面唐草文 内面果実文(桃?) 高台内に銘款(渦福)	A:精良 B:良好 C:釉明緑灰色7.5GY8/1 露胎灰白色N8/	17c~18c
14	磁器	皿	SX06	①18.0 ②4.3 ④(10.6)	型打成形 口縁部輪花 内外面施釉 外面に唐草文 内面に草花文	A:精良 B:良好 C:釉明緑灰色7.5GY8/1 露胎灰白色N8/	17c~18c
15	陶器	播鉢	SX06	①(31.2) ②13.2 ③12.65	口縁部内面~高台側面施釉 外面回転ナデ 内面播目 貼付高台	A:精良 B:良好 C:釉暗赤褐10R3/3 露胎赤色10R5/6	
16	陶器	播鉢	SX06	①(34.0) ②15.2 ③(13.0)	内外面施釉 外面回転ナデ 内面播目	A:精良 B:良好 C:釉暗赤褐10YR 3/3~にぶい黄褐色10YR5/4 露胎赤褐色2.5YR4/6	使用痕顕著
17	陶器	瓶	SX06	②14.2 ④8.1 ⑤12.7	外面施釉 底部回転ヘラケズリ 内面回転ナデ	A:精良 B:良好 C:釉頸部にぶい赤褐色5YR5/4 胴部黒色5YR1.7/1 露胎にぶい黄橙色10YR7/4	
18	陶器	土瓶蓋	SX06	①6.2 ②3.2 受部径9.1	外面施釉 回転ナデ	A:精良 B:良好 C:釉青緑色 露胎灰褐色5YR4/2	
19	陶器	土瓶	SX06	①8.0 ②<9.3> ⑤16.25	口縁部内面~胴部外面下位施釉 外面白土をイッチン掛け	A:精良 B:良好 C:釉暗赤褐色5YR3/6 露胎赤褐色10R5/4	外面露胎部煤付着
20	瓦質土器	火鉢	SX06	②<13.2> ③19.2	外面ミガキ後に線刻で龍を描く 内面・外底面ハケメ	A:微細~1mmの白色砂粒を含む B:良好 C:黒褐色5YR2/1	
21	瓦質土器	風炉	SX06	①(14.8) ②14.05 ③(14.8)	外面ミガキ後にスタンプによる雲状文様 内面ハケメのちナデ 口縁部近くに1ヶ所穿孔	A:微細の白色砂粒を含む B:良好 C:内面灰黄褐色10YR5/2 外面黒褐色10YR3/1	脚部の有無不明
22	瓦質土器	焙烙	SX06	長さ<8.0>	外面ハケメ	A:微細~2mm以下の白色・黒色砂粒を含む B:良好 C:内面浅黄橙色10YR8/3 外面黒色10YR2/1	外面煤付着
23	土師質製品	七輪(サナ)	SX06	径(19.6)		A:微細~2mmの黒色・白色砂粒を含む B:良好 C:橙色7.5YR7/6~褐灰色7.5YR4/1	上面被熱
24	土製品	人形(鯛)	SX06	長さ<11.2> 最大幅<6.6> 厚さ0.4	型押し成形 内面指頭圧痕あり	A:精良 微細の金雲母を含む B:良好 C:にぶい黄橙色10YR7/4	No25と同一個体か

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径 ※(復元値) (残存値)	形態・技法・文様の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
25	土製品	人形 (鯛)	SX06	長さ(15.2) 最大幅23.3 厚さ0.6	型押し成形 内面指頭圧痕あり	A:精良 微細の金雲母を含む B:良好 C:にぶい黄橙色10YR7/4	
26	瓦	軒平瓦	SX06	②(2.8)	唐草文 中心飾りは三葉文?	A:微細~2mmの白色砂粒を含む B:良好 C:褐灰色10YR6/1	
27	瓦	軒平瓦	SX06	②4.15	唐草文	A:微細~3mmの長石を含む B:良好 C:褐灰色7.5YR5/1	
28	磁器	椀	SX07	①(10.2) ②6.4 ④4.0	内外面施釉 外面に草花文 内面に見込み文様 畳付に砂付着	A:精良 B:良好 C:釉明 緑灰色7.5GY8/1 露胎灰白色N8/	
29	陶器	小杯	SX07	①(7.2) ②3.7 ③3.5	内面~外面中位施釉 底部外面 糸切り後ヘラケズリ	A:精良 B:良好 C:釉に ぶい褐色7.5YR6/3 露胎にぶい 褐色7.5YR5/3	
30	磁器	椀 (色絵)	SD01 (B区)	①(8.0) ②4.2 ④(3.25)	内外面施釉 外面に赤彩と緑彩 で文様(モチーフ不明)	A:精良 B:良好 C:釉灰 白色2.5GY8/1 露胎灰白色2.5GY8/1	
31	磁器	椀	SD01 (B区)	①(10.0) ②5.6 ④(5.0)	内外面施釉 外面に鳥文?	A:精良 B:良好 C:釉灰 白色5GY8/1 露胎淡赤褐色2.5YR7/4	
32	磁器	椀	SD01 (B区深)	①9.6 ②5.1 ④3.75	内外面施釉 外面に梅樹文 高台内部に銘款	A:精良 B:良好 C:釉灰 白色5GY8/1 露胎灰白色2.5Y8/1	18c後半
33	磁器	椀	SD01 (B区深)	①(12.3) ②6.6 ④5.0	内外面施釉 外面に具須で文字 「長□」	A:精良 B:良好 C:釉明 緑灰色10GY8/1 露胎灰白色N8/	
34	磁器	椀	SD01 (A区)	①(12.2) ②5.8 ④(7.0)	内外面施釉 外面に植物 見込 みに昆虫文あるいは花文	A:精良 B:良好 C:釉明 青灰色10BG7/1 露胎灰白色N8/	広東椀 19c初頭頃
35	磁器	椀	SD01 (B区)	①(9.0) ②5.6 ④(3.4)	内外面施釉 無文	A:精良 B:良好 C:釉明 緑灰色7.5GY8/1 露胎灰白色 2.5Y8/1	
36	磁器	椀	SD01 (B区)	①9.8 ②4.8 ④3.7	内外面施釉 口縁部に一部鉛釉	A:精良 B:良好 C:釉明 緑灰色10GY8/1 露胎灰白色N8/	
37	陶器	椀	SD01 (B区深)	①8.7 ②5.6 ④3.8	内外面施釉 無文	A:精良 B:良好 C:釉灰 白色7.5Y8/1~灰白色7.5YR8/1 露胎灰白色10YR8/1	
38	陶器	椀	SD01 (B区)	①(10.4) ②5.2 ④(3.3)	内外面施釉後に蛇ノ目釉剥ぎ 釉だまり顕著	A:精良 B:良好 C:釉灰 白色5Y7/2~明緑灰色10GY8/1 露胎灰白色N8/	
39	磁器	椀	SD01 (B区)	①(8.0) ②6.0 ④(4.2)	内外面施釉 外面に竹文 見込 みにコンニャク印判の五弁花文	A:精良 B:良好 C:釉明 青灰色5BG7/1 露胎灰白色N8/	筒型椀 18c後半
40	磁器	椀蓋	SD01 (B区)	①(10.1) ②2.6 つまみ径4.0 つまみ高0.5	内外面施釉 外面に花文 内面 に四方禪文	A:精良 B:良好 C:釉明 緑灰色7.5GY8/1 露胎灰白色N8/	
41	陶器	椀	SD01 (A区)	①(9.2) ②4.9 ④(3.6)	内面~高台付近施釉 外面に鉄 釉と緑色釉で竹筵文	A:精良 B:良好 C:釉灰 白色10YR8/2 露胎浅黄褐色7.5YR8/4	関西系陶器 18c頃
42	陶器	椀	SD01 (B区)	①(9.4) ②5.4 ④(4.4)	内面~高台付近施釉 外面に鉄 釉で竹筵文	A:精良 B:良好 C:釉浅 黄色2.5Y7/3 露胎浅黄褐色10YR8/3	関西系陶器 18c頃
43	陶器	椀	SD01 (B区)	①(9.4) ②4.7 ④(4.0)	内面~高台付近施釉 外面に鉄 釉で竹筵文	A:精良 B:良好 C:釉に ぶい黄色2.5Y6/3 露胎灰黄褐 色10YR6/2	関西系陶器 18c頃
44	磁器	皿	SD01 (B区)	①13.8 ②4.3 ④4.8	内外面施釉後に蛇ノ目釉剥ぎ	A:精良 B:良好 C:釉明 緑灰色7.5GY8/1 露胎灰白色N8/	
45	磁器	皿	SD01 (A区)	①(19.7) ②5.8 ④(10.6)	内外面施釉 無文 蛇ノ目凹形 高台	A:精良 B:良好 C:釉明 褐灰色10GYR8/1 露胎灰白色 N8/	18c後半~19c
46	磁器	皿	SD01 (B区)	①(9.5) ②3.0 ④3.2	内外面施釉 外面青磁釉 口縁 部錆釉 内面草花文	A:精良 B:良好 C:釉内 面明緑灰色7.5GY8/1 外面明緑 灰色7.5GY7/1 露胎灰白色10Y8/1	18c後半
47	陶器	皿	SD01 (C区)	①(11.6) ②3.5 ④(4.6)	内面~体部中位施釉 内面銅緑釉後に蛇ノ目釉剥ぎ	A:精良 B:良好 C:釉明 緑灰色10GY7/1 露胎にぶい黄 橙色10YR7/2	18c
48	磁器	皿	SD01 (B区)	①(14.6) ②3.7 ④(11.2)	内外面施釉 外面に唐草文 内面に草花文 見込みに花文 蛇ノ目凹形高台	A:精良 B:良好 C:釉明 青灰色10BG7/1 露胎5GY8/1	18c後半~19c

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径 ※(復元値)〈残存値〉	形態・技法・文様の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
49	磁器	皿	SD01 (A区)	①(13.5) ②2.8 ④8.4	内外面施釉 内面に墨弾きによる曲線文 外面に唐草文 見込みに五弁花文	A:精良 B:良好 C:釉灰白色7.5GY8/1 露胎灰白色7.5GY8/1	18c
50	磁器	皿	SD01 (B区)	①(13.8) ②3.7 ④(7.6)	内外面施釉 外面に唐草文 内面に草花文 見込みにコンニャク印判の五弁花文 高台内に銘款	A:精良 B:良好 C:釉明緑灰色10G7/1 露胎灰白色N8/	18c
51	磁器	椀	SD01東側	①13.7 ②3.45 ④7.8	内外面施釉 外面に唐草文 内面に草花文 見込みにコンニャク印判の五弁花文 高台内に銘款 畳付に砂付着	A:精良 B:良好 C:釉灰白色5GY8/1 露胎灰白色5Y7/1	18c
52	磁器	皿	SD01 (B区)	①(13.8) ②3.5 ④(8.2)	内外面施釉 外面に唐草文 内面に草花文 見込みにコンニャク印判の五弁花文 高台内に銘款 畳付に砂付着	A:精良 B:良好 C:釉灰白色N81 露胎灰白色N8/	18c
53	磁器	皿	SD01 (B区深)	①(22.6) ②3.4 ④(13.6)	内外面施釉 外面に唐草文 内面に松竹梅文 見込みに花文	A:精良 B:良好 C:釉明青灰色10BG7/1 露胎灰白色N8/	外底面にハリ付着
54	陶器	皿	SD01 (B区)	①(19.1) ②4.9 ④7.25	内面～外面下位施釉 白土による波状文 見込みに蛇ノ目釉剥き風の白土 高台に8カ所の目跡	A:精良 B:良好 C:釉灰黄褐色10YR5/2 胎土褐灰色10YR6/1 露胎にぶい黄褐色10YR5/4	18c
55	陶器	大皿	SD01 (B区深)	②<7.9> ④15.2	内面に白土による波状文・渦文 透明釉なし	A:精良 B:良好 C:釉淡橙色5YR8/3 露胎赤褐色10YR4/4	
56	陶器	皿	SD01 (B区)	①(21.8) ②6.2 ④(7.4)	内面～外面下位施釉 内外面に白土による刷毛引き 蛇ノ目釉剥き	A:精良 B:良好 C:釉にぶい黄褐色10YR5/3～4/3 露胎にぶい黄褐色10YR6/4～7/2	
57	陶器	播鉢	SD01 (B区)	①25.4 ②10.35 ③10.5	全面施釉 体部外面カキメ 内面に播目 底部に砂付着	A:精良 B:良好 C:釉暗赤褐色5YR3/3 露胎赤褐色2.5YR4/6	
58	陶器	播鉢	SD01 (B区深)	①(34.0) ②12.7 ③12.1	全面施釉 外面回転ナデ 内面に播目 底面に砂付着 見込みに周縁に重ね焼き痕	A:白色砂粒・長石を含む B:良好 C:釉暗赤褐色2.5YR3/6 露胎赤褐色10R4/4	
59	磁器	瓶	SD01 (B区)	①1.7 ②<12.05> ⑤(7.4)	外面施釉 内面回転ナデ 外面竹篋文を描く	A:精良 B:良好 C:釉明緑灰色7.5GY8/1 露胎灰白色5GY8/1	18～19c
60	陶器	土瓶蓋	SD01 (B区)	①6.0 ②4.15 受部径9.0	外面施釉 化粧土後に鉄釉で笹文	A:精良 B:良好 C:釉にぶい赤褐色7.5YR7/4 露胎にぶい橙色7.5YR7/4	
61	陶器	瓶	SD01 (B区)	②<15.5> ③9.4 ⑤(14.3)	外面胎釉後に一部藁灰釉 外面中位に對の窪み	A:精良 B:良好 C:釉極暗褐色7.5YR2/3 露胎明赤褐色5YR5/6	竹節形瓶 福岡高取系 18c頃
62	陶器	瓶	SD01 (B区深)	②<14.2> ③9.7 ⑤(15.0)	外面施釉 胴部中位に對の窪み	A:精良 B:良好 C:釉にぶい黄色2.5Y6/4 露胎赤褐色2.5YR4/6	竹節形瓶 福岡高取系 18c頃
63	瓦質土器	風炉	SD01 (B区深)	①(15.0) ②<10.5> ③(12.6)	外面ミガキ 内面カキメ 外面に桐花状のスタンプ	A:微細の白色砂粒・雲母を多く含む B:良好 C:内面暗灰色N3/ 外面黒色N4/	
64	土師質土器	七輪	SD01 (A区)	①(26.8) ②<16.6> ⑤(24.0)	外面ミガキ 内面ハケ後ナデ 体部二重構造	A:微細～3mmの白色砂粒・長石を含む B:やや良好 C:内面橙色5YR7/6 外面橙色5YR6/6	口縁部内面煤付着
65	土師質土器	七輪	SD01 (B区)	①(32.2) ②<10.4> ⑤(31.0)	外面ミガキ 内面ハケ後ナデ 体部二重構造	A:微細～3mmの長石を含む B:やや良好 C:内面浅黄褐色7.5YR8/3 外面にぶい橙色7.5YR7/4	口縁部内面煤付着
66	瓦	軒丸瓦	SD01 (B区深)	長さ24.6 幅13.5 厚さ2.2	凸面ヘラナデ 凹面布目痕 穿孔は凸面側から凹面側へ	A:微細～2mm白色砂粒・雲母を多く含む B:良好 C:褐灰色5YR4/1	
67	瓦	丸瓦	SD01 (A区)	長さ25.3 幅13.05	凸面ヘラナデ 凹面布目痕	A:白色砂粒を含む B:良好 C:黒褐色5YR2/1	
68	瓦	平瓦	SD01 (A区)	長さ23.6 幅23.4 厚さ2.2	凹凸面ナデ	A:微細～3mmの白色砂粒・雲母を含む B:やや良好 C:凸面灰色N4/ 凹面明褐色7.5YR7/1～褐色7.5YR4/3	
69	瓦	平瓦	SD01 (A区)	長さ25.5 幅23.45 厚さ1.7	凹凸面ナデ	A:7mmの礫・微細～3mmの白色砂粒・長石・雲母を含む B:良好 C:凸面にぶい黄褐色10YR6/3 凹面暗灰色N3/	
70	瓦	平瓦	SD01 (A区)	長さ26.1 幅23.5 厚さ2.0	凹凸面ナデ	A:微細～2mmの白色砂粒・雲母を含む B:良好 C:灰色N4/～灰黄色2.5Y6/2	

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径 ※(復元値) (残存値)	形態・技法・文様の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
71	瓦	平瓦	SD01 (A区)	長さ26.7 幅23.8 厚さ1.6	凹凸面ナデ	A:3mm以下の白色砂粒・雲母を含む B:良好 C:凸面 灰色N5/～灰黄色2.5Y6/1 凹 面灰色N4/	
72	瓦	平瓦	SD01 (A区)	長さ26.4 幅24.8 厚さ1.9	凹凸面ナデ	A:微細～2mmの白色砂粒・ 雲母を含む B:良好 C:凸 面にぶい黄橙色10YR7/2～暗灰 色N3/ 凹面黄褐色10YR5/6～ 暗灰色N3/	釘穴周辺に鉄錆
73	陶製品	土管	SD01 (A区)	①39.6 ②(15.1)	内外面施釉 外面カキメ	A:3mm以下の砂粒を含む B:良好 C:釉にぶい赤褐色 2.5YR4/4 露胎にぶい赤褐色 2.5YR5/4 断面赤褐色5YR4/6	
74	石製品	砥石	SD01 (B区深)	長さ(5.1) 幅6.0 厚さ1.5	側面に製作時の線状痕		粘板岩製
75	磁器	椀	SD02	①9.0 ②4.4 ④3.8	内外面施釉 外面コンニャク印 判で3カ所に施文 高台砂付着	A:精良 B:良好 C:釉明 緑灰色7.5GY8/1 露胎灰白色N 8/	18c頃
76	磁器	椀 (色絵)	SD04	①(9.2) ②5.7 ④3.4	内外面施釉 外面に染付で若松 文 色絵で梅樹文・鳥文 見込 みに五弁花文	A:精良 B:良好 C:釉灰 白色7.5GY8/1 露胎灰白色N8/	18c後半頃
77	磁器	椀	SD04	①(9.2) ②5.75 ④(3.4)	内外面施釉 外面に竹文 見込 みに五弁花文	A:精良 B:良好 C:釉明 緑灰色10GY8/1 露胎灰白色N 8/	18c
78	磁器	椀	SD04	①(7.6) ②3.8 ④3.2	内外面施釉 外面に呉須で短直 線を描くがモチーフ不明	A:精良 B:良好 C:釉灰 白色7.5Y8/1 露胎灰白色N8/	
79	磁器	椀	SD04	①(12.3) ②7.2 ④(5.0)	内外面施釉 外面青磁釉 口縁 部内面に襷文 見込みに五弁花 文 高台内に銘款	A:精良 B:良好 C:釉内 面明緑灰色7.5GY8/1 外面明緑 灰色10GY6/1 露胎灰白色7.5Y8/1	18c後半
80	磁器	椀蓋	SD04	①(10.2) ②2.6 ④(4.6)	内外面施釉 外面に丁子?・ 菊? 見込みと高台内に銘款	A:精良 B:良好 C:釉灰 白色7.5Y8/1 露胎灰白色N8/	
81	磁器	椀	SD05	②(3.2) ④4.5	内外面施釉 外面青磁釉 見込 みにコンニャク印判の五弁花文	A:精良 B:良好 C:釉内 面明緑灰色10GY8/1 外面明緑 灰色10GY7/1 露胎灰白色N8/	18c後半
82	磁器	角皿	SD05 (SX01)	①7.8 ②2.4 ④3.7	糸切り細工成形 内外面施釉 型により内面に祥瑞 見込みに 草花文	A:精良 B:良好 C:釉や や青味を帯びる灰白 露胎灰白 色N8/	18c
83	磁器	角皿	SD05 (SX02)	①8.0 ②2.25 ④3.6	糸切り細工成形 内外面施釉 型により内面に祥瑞 見込みに 草花文	A:精良 B:良好 C:釉や や青味を帯びる灰白 露胎灰白 色N8/	18c
84	磁器	皿	SD05 (SX02)	①(9.0) ②2.3 ④(5.0)	型打ち成形 口縁部は輪花 内 外面施釉 型により内面に松樹 文 コンニャク印判で見込みに 菊花文	A:精良 B:良好 C:釉グ レー味を帯びた白色 露胎灰白 色N8/	
85	陶器	土瓶	SD05 (SX01)	①7.1 ②13.4 ④8.9 ⑤16.55	内面～外面下位施釉 化粧土の 後に鉄釉や緑色釉で山水文	A:精良 B:良好 C:釉内 面オリーブ褐色2.5Y4/3 外面 灰白色5Y8/1 胎土にぶい黄色 2.5Y6/3 白化粧土灰色5Y6/1	
86	土製品	鞆羽口	SD05 (SX02)	長さ19.3 径8.5	外面ナデ 後端部内面ケズリ	A:黒色砂粒・金雲母を含む B:良好 C:①黒色7.5YR 1.7/1 ②にぶい褐色7.5YR6/3 ③褐色7.5YR4/1	先端部ガラス質滓付着
87	土製品	鞆羽口	SD05 (SX02)	長さ22.3 径11.3	外面ナデ 後端部内面ケズリ	A:黒色砂粒・雲母を含む B:良好 C:①にぶい赤褐色 2.5YR4/6 ②橙色5YR7/6 ③黒褐色5YR2/1	先端部ガラス質滓付着
88	鉄滓	鉄滓	SD05 (SX02)	長さ(3.3) 幅2.7 厚さ(2.1) 重さ20g			着磁性弱
89	土製品	人形 (烏帽子 恵比寿)	SD05 (SX02)	長さ(12.5) 幅(7.9) 奥行(7.3)	型押し成形 内面指頭圧痕あり 頭部側面穿孔あり	A:精良 微細の金雲母を含む B:良好 C:にぶい黄橙色10 YR7/4	博多人形 (中ノ子系)
90	土製品	人形 (女性)	SD05 (SX02)	長さ(7.1) 幅(5.3) 厚さ(0.45)	型押し成形 内面指頭圧痕あり	A:精良 微細の金雲母を含む B:良好 C:にぶい黄橙色10 YR7/4	博多人形 (中ノ子系)
91	瓦	軒丸瓦	SD05 (SX02)	長さ(9.0) 幅13.7 厚さ1.8	凸面ヘラナデ 凹面布目痕	A:白色砂粒・金雲母を含む B:良好 C:凸面灰白色10Y R7/1 凹面黒色10YR2/1	凸面に「今宿三右衛門」の刻印

第1次調査

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm・g)	形態・技法・文様の特徴	A:胎土 B:焼成 C:色調	備考
				①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径 ※(復元値)〈残存値〉			
92	磁器	椀		①10.1 ②5.8 ④4.2	内外面施釉 外面に梅樹文 高 台内に銘款	A:精良 B:良好 C:釉明緑灰 色10GY7/1 露胎灰白色5Y7/1	18c 後半
93	磁器	椀		①8.9 ②4.8 ④4.1	内外面施釉 外面に梅樹文 高 台内に銘款	A:精良 B:良好 C:釉明オ リーブ灰色2.5GY7/1 露胎灰白 色10Y8/1	18c 後半
94	磁器	椀		①(9.8) ②10.5 ④4.15	内外面施釉 外面に梅樹文 高 台内に銘款	A:精良 B:良好 C:釉明青灰 色10BG7/1 露胎灰白色5Y8/1	18c 後半
95	磁器	椀		①9.8 ②5.3 ④3.6	内外面施釉 外面に梅樹文 高 台内に銘款	A:精良 B:良好 C:釉明青灰 色10BG7/1 露胎灰白色7.5Y 8/1	18c 後半
96	磁器	椀		①9.8 ②5.3 ④3.7	内外面施釉 外面に梅樹文 高 台内に銘款	A:精良 B:良好 C:釉明緑灰 色10G7/1 露胎にぶい黄橙色 10YR7/3	18c 後半
97	磁器	椀		①(7.8) ②6.85 ④3.6	内外面施釉 外面に花文 豊付 に砂付着	A:精良 B:良好 C:釉明青灰 色10BG7/1 露胎灰白色 N8/	
98	磁器	椀		①(11.5) ②6.5 ④5.6	内外面施釉 外面に花文と流水 文?	A:精良 B:良好 C:釉明青灰 色10BG7/1 露胎灰白色 N8/	広東椀 19c 初頭前 後
99	磁器	椀		①9.7 ②5.1 ④3.8	内外面施釉 外面に松竹梅文	A:精良 B:良好 C:釉灰白色 10Y8/1 露胎灰白色2.5Y8/1	19c ?
100	磁器	椀		①9.7 ②4.7 ④4.5	内外面施釉 外面に詩句等 見 込みに「永楽年製」銘	A:精良 B:良好 C:釉淡い水 色 露胎灰白色 N8/	端反椀 19c 内面に焼成時の降灰 顕著
101	磁器	椀		①(9.9) ②5.8 ④3.6	内外面施釉 外面型紙摺による 花文等 見込み型紙摺による菊 文?	A:精良 B:良好 C:釉淡い水 色 露胎灰白色 N8/	近代
102	磁器	椀		①(8.5) ②4.3 ④4.4	内外面施釉 外面に植物文	A:精良 B:良好 C:釉淡い水 色 露胎灰白色 N8/	筒型椀
103	陶器	椀		②(4.0) ④3.8	内外面施釉 外面に植物文 見 込みに昆虫文	A:石英・長石・花崗岩を含む B:良好 C:釉内面にぶい黄橙 色10YR7/2 外面灰白色 N8/ 露胎にぶい黄橙色10YR7/2	陶胎染付
104	陶器	椀		①(10.8) ②7.5 ④(4.4)	内外面施釉 外面に鉄釉による 文様(モチーフ不明)	A:石英・長石・花崗岩を含む B:良好 C:釉灰色5Y5/1 露胎 褐色7.5YR5/1	
105	磁器	小杯		①(5.8) ②4.7 ④2.7	内外面施釉 無文 底部砂付着	A:精良 B:良好 C:釉明青灰 色5BG7/1 胎土灰白色 N8/	17c 後半?
106	磁器	皿		①(8.7) ②3.3 ④3.55	内外面施釉 外面青磁釉 内面 に斜格子文 見込みに簡略化し た五弁花文 高台内に簡略化し た渦福	A:精良 B:良好 C:釉内面灰 白色10Y8/1 外面明緑灰色 10GY8/1 露胎灰白色2.5Y8/1	18c 後半
107	磁器	小皿		①(9.2) ②2.3 ④3.4	内外面施釉 高台豊付に錆釉 見込みに「大明成」銘	A:精良 B:やや良好 C:釉明 青灰色5B7/1 露胎明赤褐色 5YR5/6	内面降灰顕著
108	磁器	小皿		①10.1 ②2.3 ④3.3	内外面施釉後に蛇ノ目釉剥ぎ 内面に鳥文?	A:精良 B:良好 C:釉灰白色 2.5GY8/1 露胎灰白色10YR8/2	
109	磁器	皿		①12.3 ②4.1 ④4.3	内外面施釉後に蛇ノ目釉剥ぎ 内面に斜格子文 外面無文	A:精良 B:やや良好 C:釉明 青灰色5B7/1 露胎灰褐色 5YR6/2	
110	磁器	皿		①13.8 ②4.15 ④8.0	型打成形 口縁部は輪花 内外 面施釉 外面に唐草文 内面に 牡丹唐草 見込みに五弁花文 高台内に渦福	A:精良 B:良好 C:釉明緑灰 色10G7/1 露胎灰白色5Y8/1	18c 前半?
111	磁器	皿		②(3.7)	型打成形 口縁部は輪花 全面 施釉 外面に唐草文 内面に牡 丹	A:精良 B:良好 C:釉淡い明 青灰色 胎土灰白色5Y 8/1	
112	陶器	皿		①13.4 ②3.8 ④4.1	内面～外面中位施釉後に蛇ノ目 釉剥ぎ 内面に梅文?	A:石英・長石・花崗岩を含む B:良好 C:釉にぶい黄橙色 10Y7/3 露胎にぶい橙色7.5YR7/4	陶胎染付 18c
113	磁器	皿		①(14.0) ②3.9 ④5.4	内面～高台付近施釉後に蛇ノ目 釉剥ぎ 青磁釉	A:精良 B:良好 C:釉明オ リーブ灰色5GY7/1 露胎 N7/	18c
114	磁器	皿		①(19.9) ②5.0 ④5.0	内外面青磁釉 高台豊付に鉄銹 内面に片彫りによる植物(椿?) 外面体部に装飾的な三足	A:精良 B:良好 C:釉明緑灰 色7.5GY7/1 露胎にぶい黄橙色 10YR7/3	17c
115	磁器	鉢		①(26.2) ②8.8 ④(12.8)	内外面施釉 外面に花唐草文 内面に牡丹唐草文 見込み松竹 梅文 高台内の銘は「大明成化 年製」か	A:精良 B:良好 C:釉明青灰 色5B7/1 露胎灰白色8/	
116	磁器	鉢蓋		①(13.5) ②(2.9) 受部径(12.0)	内外面施釉 受部無釉 外面蜻 唐草文 鬘斗形つまみ	A:精良 B:良好 C:釉内面灰 白色 N8/ 外面淡い明青灰色 露胎灰白色10YR8/1	19c
117	磁器	捏鉢		①(15.9) ②7.2 ④7.0	内～外面中位施釉 無文 内面 カキメ 底部外面釉剥ぎ	A:精良 B:良好 C:釉淡い明 青灰色 露胎灰白色10YR8/1	

遺物番号	種類	器種	出土地点	法量 (cm・g) ①口径②器高③底径 ④高台径⑤最大径 ※(復元値) (残存値)	形態・技法・文様の特徴	A: 胎土 B: 焼成 C: 色調	備考
118	磁器	餌猪口		②3.3	内面透明釉 外面褐色釉 口縁部内面・外底部露胎 焼成後に外面斜格子文刻む	A: 精良 B: 良好 C: 釉内面灰白色 N8/ 外面褐色7.5YR4/3 露胎灰白色2.5YR8/1	
119	陶器	椀		①(9.9) ②6.0 ④(4.1)	内面～高台付近黒釉	A: 石英・長石・花崗岩を含む B: 良好 C: 釉黒褐色10YR2/2 露胎灰白色10YR8/2	
120	陶器	椀		①(12.5) ②5.0 ④(4.2)	内外面施釉 口縁部内面に鉄釉で花文	A: 石英・長石・花崗岩を含む B: 良好 C: 釉オリブ黄色5Y6/3 露胎灰白色10YR8/2	
121	陶器	椀		①(11.4) ②7.5 ④(3.7)	内外面施釉	A: 石英・長石・花崗岩を含む B: 良好 C: 釉灰白色2.5Y8/2 露胎浅黄色2.5Y7/3	関西系陶器
122	陶器	皿		①(13.3) ②3.6 ④(4.5)	銅緑釉後に内外面に透明釉 見込みに4カ所の目跡	A: 石英・長石・花崗岩を含む B: 良好 C: 釉灰白色5Y7/2 露胎灰白色5Y7/1	17c 後半
123	陶器	皿		①(13.3) ②3.6 ④(4.5)	銅緑釉後に内外面に透明釉 見込みに4カ所の目跡	A: 石英・長石・花崗岩を含む B: 良好 C: 釉灰白色5Y7/2 露胎灰白5Y7/1	17c 後半
124	陶器	皿		①(20.6) ②5.1 ④(6.7)	内面～外面下位まで施釉 内面は銅緑釉後に蛇ノ目剥ぎ	A: 石英・長石・花崗岩を含む B: 良好 C: 釉内面暗緑灰色10G4/1 外面灰黄色2.5Y7/2 露胎にぶい黄橙色10YR7/2	18c
125	陶器	火入		②6.9 ④(5.1)	口縁部内面～上面鉄釉 外面高台付近まで暗緑黄色釉	A: 石英・長石・花崗岩を含む B: 良好 C: 釉暗灰黄色2.5Y4/2 露胎褐色7.5YR4/6	17c 後半
126	陶器	火入		①(12.8) ②5.2 ④(5.1)	口縁部内外面に灰釉 削り高台	A: 石英・長石・花崗岩を含む B: 良好 C: 釉灰褐色7.5YR 6/2 露胎にぶい赤褐色5Y 4/4	
127	陶器	鉢		①(14.4) ②(7.3)	内外面鉛釉 口唇部拭き取り	A: 石英・長石・花崗岩を含む B: 良好 C: 釉暗褐色10YR 3/3 露胎にぶい赤褐色5Y 4/4	
128	陶器	土瓶		①(8.3) ②(11.9) ③(8.9)	口縁部内面～外面下位に化粧土 外面一部鉄釉掛け	A: 石英・長石・花崗岩を含む B: 良好 C: 釉内面灰黄褐色10YR6/2 外面にぶい黄橙色10YR7/3 露胎にぶい赤褐色2.5YR4/4	
129	陶器	甕		②(6.7) ④8.0	内外面に褐色釉	A: 石英・長石・花崗岩を含む B: 良好 C: 釉暗赤褐色2.5YR3/4 露胎にぶい赤褐色5Y4/4	
130	陶器	瓶		②(9.4) ③6.0	外面下位まで施釉(黒釉) 内面にシボリ痕	A: 石英・長石・花崗岩を含む B: 良好 C: 釉内面にぶい赤褐色5YR4/4 外面黒褐色5YR3/1 露胎にぶい黄橙色10YR6/3	
131	陶器	播鉢		①(33.8) ②13.5 ③(10.1)	口縁部施釉(鉄釉) 内面に播目 底部糸切り	A: 石英・長石・花崗岩を含む B: 良好 C: 釉暗褐色7.5YR3/4 露胎にぶい赤褐色5YR4/4	
132	陶器	播鉢		②(6.8)	口縁部施釉(鉄釉) 内面に播目	A: 石英・長石・花崗岩を含む B: 良好 C: 釉極暗赤褐色5YR2/4 露胎灰褐色5YR4/2	
133	土師質土器	火鉢		①12.9 ②(8.9) ③(10.3)	内外面ナデ 外面4カ所に花文 花文を唐草文で繋ぐ	A: 石英・長石・花崗岩を含む B: 良好 C: 内面にぶい赤褐色5YR5/3 外面にぶい橙色5YR6/4	内面被熱
134	瓦質土器	甕		③34.5	外面剥落により調整不明 内面ハケメ後に工具ナデ	A: 石英・長石・花崗岩を含む B: やや良好 C: 灰白色	
135	石器	砥石		長さ<10.1> 幅7.5 厚さ5.5 重さ580.6 g			砂岩
136	鉄器	刀子		長さ<13.4> 幅3.1 厚さ(0.2) 重さ38.2 g			
137	須恵器	高台付杯		②<1.75> ④(9.2)	体部内外面回転ナデ 底部外面回転ヘラ切り後ナデ 底部内面不定方向ナデ	A: 0.5mm 程の黒色砂粒を多く含む B: 良好 C: 内外面褐色10Y6/1	
138	土師器	甕		①(15.1) ②<4.8>	口縁部内外面ヨコナデ 体部外面ハケ目 体部内面ケズリ	A: 石英・長石・雲母・角閃石・赤褐色粒を含む B: 良好 C: 内外面にぶい橙色5YR6/4	
139	土師器	甗		①(23.0) ②22.6 ③(13.6)	外面～口縁部内面ハケメ後ナデ 体部内面ケズリ	A: 石英・長石・金雲母・赤褐色粒を含む B: 良好 C: 内外面にぶい橙色7.5YR7/4～黒褐色7.5YR3/1	底部二孔式
140	土師器	移動式竈		①(23.4) ②22.5 ③(13.5)	内外面ハケメ後ナデ	A: 雲母・角閃石を含む B: 良好 C: にぶい褐色7.5YR6/3～褐色7.5YR4/1	内面・底部下面に煤附着
141	瓦	平瓦		長さ<10.5> 幅<10.3> 厚さ<3.2>	凸面縄目叩き 凹面布目痕	A: 石英・角閃石・赤褐色粒を含む B: やや良好 C: 灰白色10YR8/1	

圖 版



(1) 第3次調査全景 (南西から)



(2) 第3次調査区遠景 (四王寺山を望む) (西から)



(1) SE01完掘状況
(西から)



(2) SE01黄褐色土 (最上層)
確認状況 (西から)



(3) SX07完掘状況
(北西から)



(1) SD01南西側検出状況
(南東から)



(2) SD01遺物出土状況
(南から)



(3) 作業風景 (南から)



(1) SD01土層 (北東から)



(2) SD01完掘状況 (東から)



(3) SD01完掘状況
(北東から)



(1) SD02土層
(南東から)



(2) SD02完掘状況
(南東から)



(3) SD04完掘状況
(北東から)



(1) 補足調査区全景
(北東から)



(2) 補足調査区落込み土層
(東から)



(3) 第3次調査地現況
(北から)



第3次調査出土遺物





19



21



20



27



20部分写真



23



25









85



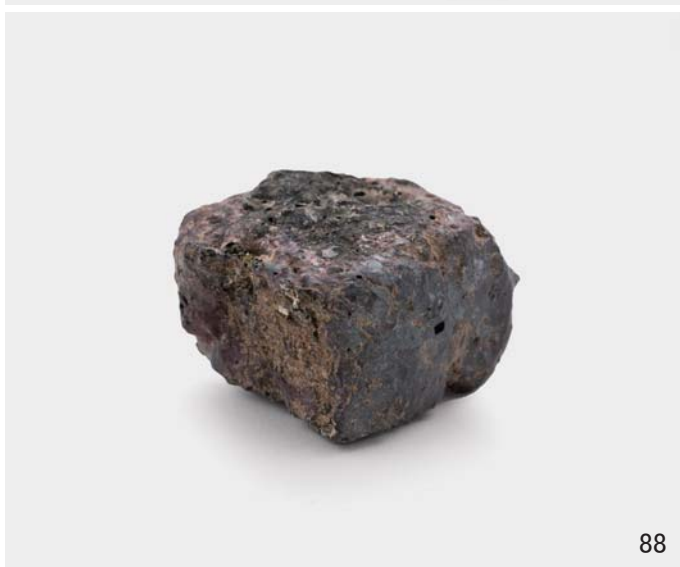
86 · 87



90



91



88



91部分写真



報告書抄録

ふりがな	ざっしょのくまいせきに							
書名	雑餉隈遺跡2							
副書名	第3次・第1次調査							
巻次								
シリーズ名	大野城市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第191集							
編著者名	林潤也							
編集機関	大野城市教育委員会							
所在地	〒816-8510 福岡県大野城市曙町二丁目2番1号 電話 092 (501) 2211							
発行年月日	2021年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 〃	東経 〃	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ざっしょのくまいせき 雑餉隈遺跡 第3次調査	ふくおかけんおおのじょうし 福岡県大野城市 にしきまち 錦町一丁目15・16			33° 32′ 28″	130° 28′ 24″	20050531 ～ 20050624	130㎡	共同住宅 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
雑餉隈遺跡 第3次調査	集落遺跡	奈良・江戸	井戸 土坑 溝	陶磁器 瓦 瓦質 土器 土師質土器 須恵器 土製人形 木製品				
要約	奈良時代の土坑、江戸時代の井戸・土坑・溝跡などを検出した。出土遺物の大部分は18世紀代にあたり、陶磁器に混じって、比較的まとまった量の瓦や大形土製人形（博多人形）、甌の羽口なども出土した。当該地は、日田街道沿いの集落「雑餉隈」の一角にあたり、宿場と宿場の中間に位置する「間の宿」として栄えたことが知られている。多様な遺物は、雑餉隈集落の宿場的・町場的な景観・生活を示唆するものであり、重要な成果を得ることができたといえよう。							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 〃	東経 〃	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ざっしょのくまいせき 雑餉隈遺跡 第1次調査	ふくおかけんおおのじょうし 福岡県大野城市 ざっしょのくまいせき 雑餉隈町三丁目15-4			33° 32′ 33″	130° 28′ 20″	198810 ～ 198812		共同住宅 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
雑餉隈遺跡 第1次調査	集落遺跡	奈良・江戸		陶磁器 瓦質土器 須恵器 土師器 鉄製品				
要約	遺構の検出状況は不明であるが、奈良時代および江戸時代の遺物が出土した。遺物の大部分は江戸時代の陶磁器であり、その年代は18世紀を主体とし、17世紀後半～19世紀におよぶ。雑餉隈集落の形成時期、日田街道の整備時期を考える上で重要な成果といえよう。また片彫りした青磁皿など高級製品も含まれており、集落の食器相を考える上でも興味深い。							

雑餉隈遺跡 2

第3次・第1次調査

大野城市文化財調査報告書第191集

2021年3月31日

発行 大野城市教育委員会
福岡県大野城市曙町2-2-1

出版 九州コンピュータ印刷
福岡市南区向野1丁目19番1号